

ぐんまくん



(写真は、藤岡市の藤岡まつり)

資料集「ぐんまくん」は、4年生の社会科で学習することについて、群馬県全体のように群馬県・身近な地いきの人々の取組が書いてあるよ。この資料集を活用して、自分たちの住んでいる地いきについてもっと広く考えてみよう。



組	番	名前

4 年 社会科 ^{しや} 広い視野から考える資料集

ぐんまぐんのないよう

○「くらしをささえる水」の学習についての資料

- ・大切な言葉を説明している資料 その1
- ・大切な言葉を説明している資料 その2
- ・群馬県の水 その1
- ・群馬県の水 その2
- ・飲料水の確保に対する群馬県の取り組み その1
- ・飲料水の確保に対する群馬県の取り組み その1
- ・水を大切にするために人々がしていること その1
- ・水を大切にするために人々がしていること その2

○「住みよいくらしとごみ」の学習についての資料

- ・大切な言葉を説明している資料 その1
- ・大切な言葉を説明している資料 その2
- ・群馬県のごみしより その1
- ・群馬県のごみしより その2
- ・ごみしよりの問題に対する群馬県の取り組み
- ・ごみをへらすために人々がしていること その1
- ・ごみをへらすために人々がしていること その2

○「ふるさとれきしまップ」の学習についての資料

- ・大切な言葉を説明している資料
- ・群馬県の文化ざい その1
- ・群馬県の文化ざい その2
- ・文化ざいほごに対する群馬県の取り組み その1
- ・文化ざいほごに対する群馬県の取り組み その2
- ・地いきにのこる文化を受けつぐために人々がしていること その1
- ・地いきにのこる文化を受けつぐために人々がしていること その2
- ・地いきにのこる文化を受けつぐために人々がしていること その3

資料集「ぐんまぐん」を活用して、自分たちの住んでいる地いきについて、「群馬県全体のようにすはどんなっているか」というもっと広い視野で考えてみましょう。



くらしを ささえる水



(写真は、藤岡市の藤岡市中央浄水場)

資料集「ぐんまくん」を活用して、自分たちの住んでいる地
いきの飲料水について調べたことと群馬県の水のようすや飲
料水の確保に対する取り組みを関連付けて、飲料水の確保に
についてもっと広く考えてみよう。



大切な言葉を説明している資料 その1

<給水>

給水とは、水を家庭や学校、工場など、使われる場所までとどけることです。給水量は、その量をあらわします。

人間は生活していく上で毎日 250 リットルの水(せんとく 60 リットル、お風呂 80 リットル、トイレ 60 リットル、台所 50 リットル)が必要と言われます。写真にあるように、手をあらうときにも水道の水が必要です。水道があることでわたしたちの生活が成り立っています。

他にも学校には、プール、そうじ、手あらいなどで使われる水が、町の中では、しょうぼう、ふん水、レストランなどで使われる水が水道によって給水されています。



<じょう水場>

じょう水とは、安全な飲みものとしてしゅりされ、きれいになった水のことです。川の水や地下水など自然の水はそのままでは飲めないのに、じょう水場できれいにされます。じょう水場は、きれいな水をつくる工場の役目を果たしています。最近では、「より安全で」「おいしい」水をつくることにも力を入れるようになってきました。そのために、機械やせつびの工夫だけでなく、働く人もいろいろな工夫をしています。

<ダム>

ダムは川の水量を調節したり、水力発電に利用されたりしています。川の上流に計画的にダムがつくられ、水不足の心配がへりました。ダムの建設は、国や市などの行政と地いきの住民がよく話し合い、計画的に進められています。川につくられた人工のダムは青いダム、森林は緑のダム、山につもった雪は白いダムという言葉があります。自然を守ることはとても大切なことです。

写真は、藤岡市の下久保ダムです。神流川の上流にダムをつくり、川の水が少なくなったときに、ダムの水を流すようにしています。



<水質けんさ>

水道の水質は、水道法という法りつで決められています。水質とは、川の水や地下水にふくまれているものの性質のことです。飲んで体に害がないかというきじゅんをつくり、じょう水場で、細きん、にごり、におい、有害な物質などがあるかをけんさします。安全な水をとどけられるように、きけんなび生物などを見つけることができる機械を使って調べます。水道の水は、こうしたけんさを受けた安全なものです。

太田市にある水質検査センターでは、群馬県の4つのじょう水場でつくられた水道の水質をけんさしています。川の水は日によってよごれがちがうので、毎日けんさをして、安心、安全な水をとどけています。

大切な言葉を説明している資料 その2

<水げんの森>

森林にしげる木には、根で土やすなをおさえこみ、流れ出すのをふせぐ働きがあります。そのため、雨やわき水は、少しずつゆっくりと流れるだけでなく、森林の中にたくわえられます。このように森林はダムのような働きをするので、「緑のダム」とも言われています。

日本は、水が手に入りやすい国と言われています。その理由に、ゆたかな森にめぐまれていることがあげられます。水げんの森を守ることは、わたしたちのくらしを守ることになります。

写真は、みなかみ町の奥利根水げんの森です。川のいちばん上流にある水げんの森にふった雨はたくわえられ、地上にわき出した水が集まって、やがて小さな川をつくり、流れていきます。



<エコツアー>

美しい自然や文化財のある場所をたずねる旅行です。エコツアーを楽しむことを通じて、自然や文化を守ることの大切さに気付き、身近な地いきや地球全体のかんきょうなどについて考えることができます。

写真は、みなかみ町にある谷川岳やそのまわりの自然をいかして行われたエコツアーです。とね川をゴムボートで下るラフティングをしながら、とね川の大切さに気付き、かんきょうを守ることをめざしています。



<下水しおり場>

家庭や工場などで使われた水をきれいにして、川や海などへ流すしせつのことです。「じょう化センター」や「水再生センター」という場合もあります。一度上流で使われた水は、下水しおり場できれいにされてから、また川などに流され、下流の地いきでふたたび使われます。台所の流しに、残飯や食用油を流すと、下水かんがづまったり、川や海をよごしたりする原因になります。

写真は、玉村町にある下水しおり場（県央じょう化センター）です。家庭や工場からでたよごれた水は、ここでしおりされ、下水かんを通過して下水しおり場に送られきれいな水にされてから、とね川に流されます。



<節水>

水のむだ使いをやめて、節約することです。

歯みがきの時にじゃ口をしめてみがくと、1回でやく5リットルの節水になります。また、食器洗いの時にじゃ口をこまめにしめて洗うと、1日でやく80リットルの水を節約することができます。

地球上の水のほとんどは海水で、わたしたちが使うことのできる水はわずかと言われます。世界には水不足が深刻な地いきもあり、水をかぎりのある貴重なしげんとして考えていくことが大切です。

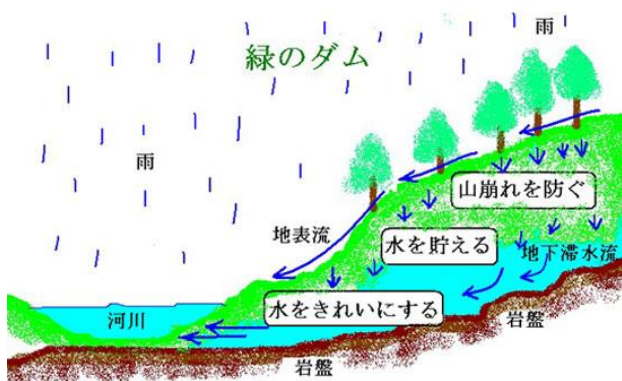


群馬県の水 その1

☆群馬県の水① 「群馬県的生活用水の量」

わたしたちは、毎日どれくらいの水を使っているのでしょうか。人が生活をするために家庭やお店などに引いている水を生活用水と言います。群馬県の人たちが毎日使っている生活用水は、1人1日あたり445^{リットル}（平成17年度）です。全国平均が363^{リットル}なので、群馬県の人たちは、かなり多くの水を使っていることが分かります。全国平均より多くなるのはなぜでしょうか。自分たちの住んでいる市町村の人たちが使う生活用水の量を調べ、群馬県的生活用水の量と比べてみましょう。

☆群馬県の水② 「かぎりある資源 群馬県の水」



群馬県の水は、いったいどこから来るのでしょうか。水の源は雨や雪です。これらが川の水になったり、地中にしみ込んで地下水になったりして、群馬県の北部の山地から南部の平野に向かって流れています。水を使うときに忘れてはならないのは、森林の働きです。森林があるところは、落ち葉のすきまや小さな生き物があけた穴がたくさんあり、スポンジのようになっています。このおかげで、大雨の時に流れ出る水の量がおさえられています。一方、雨が降らないときには、たくわえた水を少しずつ送り出す働きがあります。この働きを水源涵養機能すいげんかんようきのうと呼んでいます。このように、川の上流の森林があるところは、こう水をふせいだり、水をたくわえたりするダムのような役割を果たしているため、緑のダムと呼ばれています。

私たちは、日ごろ、すいじや洗たく、風呂、トイレなどで多量の水を使っています。それを洗たくのときに風呂の残り湯を利用したり、車をあらうときにホースから水を流したままにしないでバケツに水をくんであらったりするなど、少し気を付ければ、水を節約することができます。水を使うということは、同時に水をよごすことでもあります。私たちは、川の下流でくらす人たちが、私たちと同じようにきれいな水を利用できるように、きれいな水を川へ返すことを心がけたいものです。「きれいなままでかえす」それがわたしたちにできることです。

かぎりある資源である群馬県の水について考えてみましょう。

群馬県の水 その2

☆群馬県の水③ 「群馬県の川の水」

平成 24 年度群馬県のきれいな川

	川の名前	BOD [mg/L]
1 位	片品川（上流）	0.5 未満
2 位	とね川（上流）	0.5
2 位	あがつま川（上流）	0.5
2 位	かな川（上流）	0.5

平成 24 年度群馬県のよごれている川

	川の名前	BOD [mg/L]
1 位	つる生田川	9.1
2 位	谷田川	7.7
3 位	休はく川	6.7

※川のよごれは、BODとしてひょうじします。

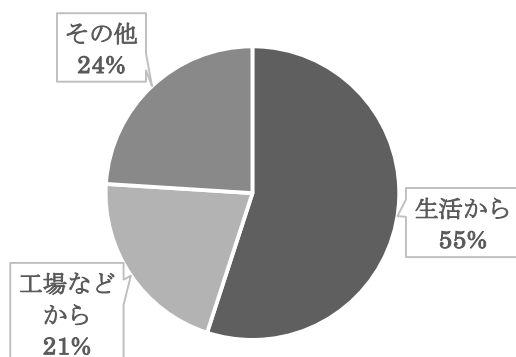
この数値が小さいほどきれいで、大きいほどよごれていることをしめしています。

群馬県は、日本一の^{りゅういきめんせき}流域面積を持つとね川の上流にあたり、この川の水は群馬県内だけでなく、関東地方のたくさんの人たちの生活をささえています。この大切なとね川の水はきれいなのでしょうか。平成 24 年度の調査結果では、とね川の上流である山の方の川はきれいなところが多く、平地の方の川はよごれているところが多いです。

群馬県の川の水のよごれについて考えてみましょう。

☆群馬県の水の課題 「ぐんまの川を守るために」

群馬県の川をよごしている理由



川や湖などをよごしている大きな原因として、家庭から出る生活はい水があります。

生活はい水は、わたしたちが食器をあらったり、トイレに行ったり、お風呂に入ったりして、ふだんの生活の中で出るよごれた水のことです。

左のグラフから分かるように、群馬県の川に流れこむよごれの原因の多くが生活はい水です。

群馬県では、きれいな川を守るために、下水道

や^{じょうかそう}浄化槽で生活はい水をきれいにした後、川や湖などにもどしています。

なぜわたしたちは、きれいな川を守る必要があるのか考えてみましょう。

飲料水の確保に対する群馬県の取り組み その1

☆群馬県の取り組み① 「群馬県による水道水安全性検査」



群馬県では、川の水や地下水が浄水場で安全な飲料水としてつくられているか確かめるために水道水安全性検査を行っています。毎週前橋市の水道水をくみ取り、有害な物質がふくまれているかを調べます。

平成 28 年 1 月に行われたすべての検査では、有害な物質はふくまれていませんでした。群馬県は、なぜこのように毎週浄水場でつくられた飲料水が安全かどうか確かめる検査をする必要があるのか理由を考えてみましょう。

☆群馬県の取り組み② 「ぐんまウォーターフェア」

群馬県では、わたしたちの毎日の生活や産業をささえている水のきょうさやダムの大切さについて、群馬県に住んでいる人たちに分かってもらうため、毎年「ぐんまウォーターフェア」を行っています。平成 27 年は、7 月 31 日～8 月 2 日まで太田市のぐんまこどもの国で行われました。さまざまな実験や観察をしながら、小学生に対して水の大切さを考えてもらう内容になっています。

具体的には次のような体験ができます。

- にごった水をきれいにする実験
- 家が出る水のよごれを調べる実験
- ダムのしくみや役割を調べる実験
- 森の生きものや川に住む魚の観察
- 水をきれいにする小さな生きものの観察
- じっさいの川のきれいさや水のにごりの原因となる物質の測定

「ぐんまウォーターフェア」にさんかすることで、わたしたちはどんなよいことがあるのか考えてみましょう。

ぐんまウォーターフェア



飲料水の確保に対する群馬県の取り組み その2

☆群馬県の取り組み③ 「群馬県水道水質監視^{すいしつかんし}」

田畑で使われる農薬や工場から出たよごれた水にふくまれる有害な物質が、知らず知らずのうちに川の水や地下水に入りこんでしまうことがあります。そこで、群馬県では、主な水げんになっている川の水や地下水の水質を調べる群馬県水道水質監視を行っています。群馬県で 20 か所の川の水や地下水を取り、有害な物質が入りこんでいないかを毎年夏と冬の2回検査します。しょうらいにわたり水道水として安全に使うことができるかを調べ、問題や課題を見付けるためです。

もし、群馬県が水道水質監視を行わなかったら、どんなこまることがおきるでしょうか。

☆群馬県の取り組み④ 「ダム^{だむ}の建設」



ダムは、川をせき止めてつくられており、大きな水がめのようなものです。人口がふえて産業がさかんになると、水がたくさん必要になります。ダムは、雨水がすぐに海に流れてしまうことをふせいで、必要なときに一定量の水を流し、川の水がかれないようにする働きがあるのです。反対に、つゆや台風

など雨の多い時は、ダムに水をためこみ、下流のこう水をふせぐ役目も果たします。また、ダムにためた水の力で、水力発電も行われます。

写真は、長野原町の八ツ場^{やんば}ダム建設現場です。吾妻^{あがつま}川の水をせき止めてダムを作ります。八ツ場ダムは、国が中心となり平成 31 年度の完成を目指して作っていますが、群馬県もその建設に協力しています。八ツ場ダムにためられた水は、群馬県だけでなく、東京都、埼玉県、茨城県、千葉県の人々が使う水道水になる予定です。

群馬県では、水不足になってみんながこまることのないよう、水の使用量を予想して、ダムを計画的に作ってきました。わたしたちの生活に役立っているダムですが、ダムをつくるためには、建設予定地に住んでいる人の移転や周りの自然へのえいきょうなど、多くの問題があります。群馬県では、このような問題を考えた上で、ダムづくりの計画を立てるようにしています。

水を大切にするために人々がしていること その1

☆みなさんは「もったいない」という言葉を聞いたことがありますか。かぎられた資源である水をたいせつに使うためには、「もったいない」の心がたいせつです。毎日の生活を見つめなおし、自分たちはどのような工夫や取り組みができるか考えてみましょう。

＜節水をしたり、水の再利用をしたりする＞

【さまざまな節水や水の再利用】

○食器あらいで節水するには

油でよごれた食器は、重ねないようにし、よごれをふき取ってからあらうようにする。水道を流しっぱなしにしないで、あらいおけを使ってためあらいをする。1日で約80Lの水を節約できる。

○せん車で節水するには

ホースで水を流しながらあらわないで、バケツに水をくんで車をあらうようにする。1回で約190Lの水を節約できる。

○せんたくで水を再利用するには

おふろの残り湯を使ってせんたくする。1日で約100Lの水を節約できる。

自分たちが水を毎日安全に飲んだり使ったりすることができるのは、水道局の人たちの努力とともに、川を大切に思っていて行動している人々のおかげでもあります。わたしたちは、水なしには生きていくことができません。かぎられた水をいつまでも使えるように、自分にどんなことができるか考えることがひとつです。

「くらしをささえる水」の学習で調べてきた節水や水の再利用のくふうの中から、自分ができそうなものについて考えてみましょう。

＜川のかんきょう調査に参加する＞



川のかんきょう調査は、水質測定器を使って川の水質を検査したり、川の水質をはんだんする目じるしとなる水辺の生き物をつかまえて川のよごれぐあいを調べたりします。群馬県の衛生環境研究所が地域に住んでいる人と協力しながら調査しています。

今から40年ほど前は、川で水遊びをしたり、泳いだりすることができました。しかし、川の水がよごれ、だんだん泳ぐことができない川がふえています。わたしたち

が毎日使っている水は、川の水を取り入れて、じょう水場できれいにしつくられています。川をきれいにすることは、わたしたちの生活に大きな関係があります。

水を大切にするために、自分ができることについて考えてみましょう。

水を大切にするために人々がしていること その2

<節水をよびかける標語を考え、みんなにつたえる>

大事に使おう
みんなの水



2011(平成 23)年におこった東日本大震災のとき
被災地では、水道が止まり、ひ害を受け、多くの人が
水を使えなくなりました。また、世界全体では、安全
な水を手に入れることができない人たちが今も約
12 億人もいます。水は、いつでも、どこでも手に入る
ものではないのです。

はみがきは
じゃぐちをしめて
口すすごう



「くらしをささえる水」の学習をふり返りながら、節水をよびかける標語をつくり、家族や地いきの人に注意をよびかけましょう。また、標語でどんなことをみんなに伝えようと思ったか話し合ひましょう。

<水を大切に使うために自分にできることをしょうかいするカードをつくって、みんなにつたえる>

しょうかいカード

【自分にできること】

歯みがきで節水する

【どんなことをするか】

じゃ口をしめて歯をみがく。

コップに水をくんでおき、歯を
みがいたら口をゆすぐ。

【どんなよいことがあるか】

歯をみがくときの水が少なくてすむ。1 回で約 5
Lの水を節約することができる。



「くらしをささえる水」の学習をして、水を大切に使うために自分にできることをしょうかいカードにまとめ、みんなにつたえます。しょうかいカードには、どんなことをするか、それをするとなんないことがあるかをイラストを入れながら書きます。

かんせいしたカードは、クラスのろうかにけいじし、水を大切に使うために自分にできることをみんなにしょうかいします。

「もったいない」の心を持ちながら、しょうかいカードをつくってみましょう。

住みよい くらしとごみ



(写真は、藤岡市の藤岡市清掃センター)

資料集「ぐんまくん」を活用して、自分たちの住んでいる地
いきのごみしよりについて調べたことと群馬県のごみしよりの
ようすやごみしよりに対する取り組みを関連付けて、ごみしよ
りについてもっと広く考えてみよう。



大切な言葉を説明している資料 その1

<しげん>

ものをつくったり、電気をおこしたりするときのもとになる原料や燃料のことで、わたしたちの生活や産業などをささえる大切なものです。しげんが不足すると生活に大きなえいきょうが出ます。

米や魚などの食料、土地、水、森林、石油、石炭もしげんです。



<ごみしゅう集>

ごみを集めることです。きまりを守って分別してごみを出すことで、ごみのしゅう集がしやすくなります。ごみを出す場所やしゅう集日は、決まっています。

写真は、藤岡市のごみのしゅう集場所です。しゅう集場所には、いつ、どんな種類のごみをしゅう集するかがひょうじされています。



<ごみの分別>

ごみを種類ごとに分けて出すことです。分別することで、ごみしゅりがしやすくなります。ごみの分別は、ごみのげんりょうを進めるための第一歩です。

写真は、藤岡市のスーパーが家庭で出たごみを分別して回収しているようすです。種類ごとに回収されたごみは、リサイクルされます。



<せいそうセンター（せいそう工場）>

しゅう集されたもやせるごみをもやしています。工場は中央せいぎょ室の少ない人数でも管理できるようになっています。

写真は、伊勢崎市のせいそうセンター（伊勢崎市せいそうリサイクルセンター21）です。ごみをもやしたときに出る熱を利用してセンターで使う電気をつくっています。



<しょぶん場>

ごみをもやしても、すべてなくなるわけではありません。ごみをもやした後に残ったはいなどは、しょぶん場にうめられます。しょぶん場からよごれた水が出ることがないように地中にシートをはっています。ごみはいくらでもしょぶん場にうめられるわけではありません。また、しょぶん場をつくることができる場所や広さには、かぎりがあります。

大切な言葉を説明している資料 その2

<リサイクル>

1回使ったものを原料にもどして、またせい品をつくることです。分別して出されたごみは、つくり直したり、原料にしたりして、ふたたび使えるようになるものもあります。紙ごみから再生紙を作ることや回収した缶からふたたび缶を作ることなどがリサイクルに当たります。リサイクルは、ごみをへらすことになるだけでなく、大切なしげんを節約することにもつながります。

写真は、集められたアルミ缶です。あたためてとかし、もう一度アルミ缶に再生されます。



<リサイクルマーク>

しげんとなるものを分別して回収し、もう一度しげんとして再利用できるものにつけられたマークのことです。

イラストは、アルミ缶のリサイクルを進めるために付けられたマークです。回収されたアルミ缶は、もう一度作り直されて利用されています。



<3R>

ごみになるものをへらすことをリデュース、何度も使えるものをくり返し使うことをリユースと言います。この二つにリサイクルを合わせて、3^{すりーあーる}Rと言われます。中でも牛にゅうびんなどの空きびんを回収して何度も使うリユースは、見直されています。リサイクルに比べて、使うエネルギーが少なくてすむからです。

<エコバッグ (マイバッグ) >

買い物をするときに、品物を入れるために持っていくふくろのことです。持っていくエコバッグを買い物で使い、お店の人からレジぶくろをもらうのをことわることで、ごみをへらすのがねらいです。3Rのうちリデュースに当たります。

レジぶくろを作るときやごみをしよりするときに二酸化炭素が出ます。二酸化炭素は、地球温暖化のげんいんの一つです。買い物するときに、エコバックを使うと、二酸化炭素をへらすことにもなります。



<ぜい金>

国や都道府県、市町村が、そこに住んでいる人から集めるお金のことです。国や都道府県、市町村がおこなうさまざまな仕事のために使われます。ごみしよりは、一人ではできないので、市町村が行う仕事の一つです。費用にはぜい金が使われます。ごみのりょうが多くなると、それだけ多くのぜい金を使うことになり、市町村が行う他に必要な仕事に使えるお金が少なくなってしまうです。

群馬県のごみしより その1

☆群馬県のごみの量

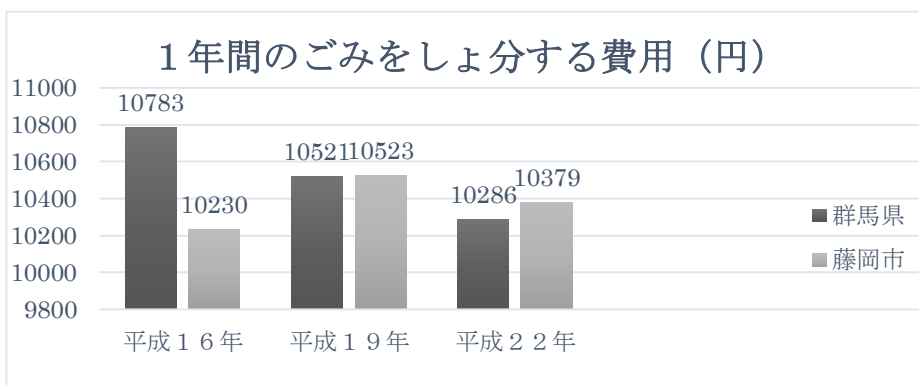
1年間に出す一人当たりのごみの量（平成25年度）

じゅん位	都道府県名	ごみの量
1位	福島県	395kg
2位	青森県	390kg
3位	山口県	383kg
4位	群馬県	383kg

平成25年度に群馬県の家庭や会社から出されたごみの量は、一人1年当たりでは383kgとなっています。これは、都道府県別では福島県、青森県、山口県に次いで四番目に多くなっています。群馬県の人たちは、かなり多くのごみを出していることが分かります。ごみの量が多いのは、なぜでしょうか。

自分たちの住んでいる市町村の人たちが出すごみの量を調べ、群馬県のごみの量と比べてみましょう。

☆群馬県のごみをしょ分する費用



平成22年に群馬県でごみをしょ分するのにかった費用は、一人1年当たりでは10,286円となっています。（藤岡市では、10,379円で

す。）ごみをへらすことは、その分他に必要な市町村が行う仕事に使えるお金をふやすことにつながります。

自分たちの住んでいる市町村のごみをしょ分するのにかかる費用を調べ、群馬県のごみをしょ分する費用と比べてみましょう。

群馬県のごみしより その2

☆群馬県のリサイクル

ごみのリサイクル率（平成21年）

じゅ ん位	都道府 県名	リサイクル 率 (%)	じゅ ん位	都道府 県名	リサイクル 率 (%)	じゅ ん位	都道府 県名	リサイクル 率 (%)
1位	三重県	30.1	17位	静岡県	21.6	33位	長崎県	17.3
2位	山口県	28.4	18位	宮崎県	21.5	33位	徳島県	17.3
3位	岡山県	26.0	19位	香川県	20.9	35位	秋田県	17.2
4位	長野県	24.7	20位	大分県	20.6	36位	佐賀県	17.0
5位	千葉県	24.6	21位	富山県	20.5	36位	鹿児島県	17.0
6位	神奈川県	24.5	22位	北海道	20.4	36位	山形県	16.9
7位	埼玉県	24.1	23位	滋賀県	19.5	39位	石川県	15.2
7位	高知県	24.1	24位	岩手県	18.9	40位	群馬県	15.1
9位	広島県	23.9	25位	福井県	18.8	41位	福島県	14.9
10位	新潟県	23.6	26位	茨城県	18.4	42位	和歌山県	14.4
11位	愛知県	23.5	27位	山梨県	18.3	43位	奈良県	14.1
12位	東京都	23.4	28位	愛媛県	18.1	43位	沖縄県	13.7
13位	鳥取県	23.3	29位	熊本県	18.0	45位	青森県	12.9
14位	岐阜県	22.9	30位	栃木県	17.9	45位	京都府	12.9
15位	福岡県	22.4	31位	宮城県	17.7	47位	大阪府	11.8
16位	島根県	22.3	32位	兵庫県	17.4			

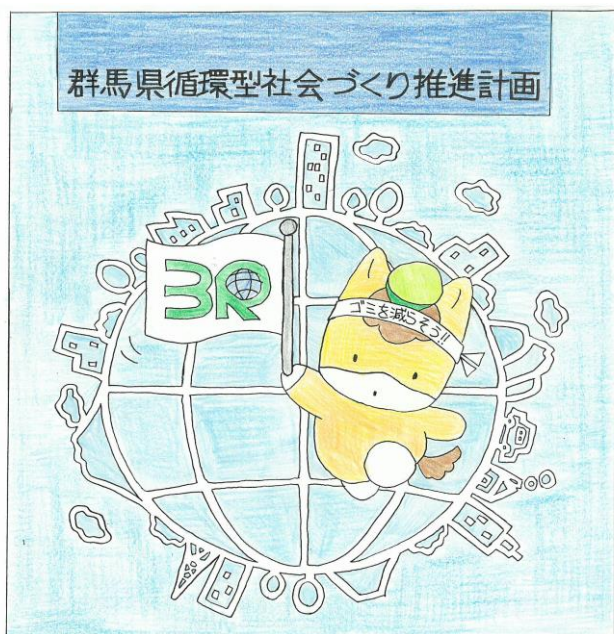
平成21年に群馬県内で出されたごみのうち15.1%が^{へいさん}リサイクルされています。（全国平均は、20.5%）都道府県別で見ると、40番目という悪い結果になっています。群馬県の人たちが出すごみは、あまりリサイクルされていないことが分かります。全国平均よりひくいのはなぜでしょうか。自分たちの住んでいる市町村の人たちが出すごみのリサイクル率を調べ、群馬県のごみのリサイクル率と比べてみましょう。

平成20年度に群馬県で出されたごみの種類を見ると、紙や布が48.4%でもっとも多いです。今後、ごみをへらすためには、紙や布のリサイクルを進めることが大切です。

ごみしよりの問題に対する群馬県の取り組み

☆群馬県の取り組み① 「群馬県循環型社会づくり推進計画」 じゅんかんがたしやかい すいしんけいかく

群馬県では、平成23年度から平成27年度までの5年間、「群馬県循環型社会づくり推進計画」をつくり、ごみをへらし、しげんを利用することを積極的に進めようとしています。具体的に次のような取り組みをしています。



- ごみになるものをへらす「リデュース」、何でも使えるものをくり返し使う「リユース」、つくり直したり原料にもどしたりしてまた使えるようにする「リサイクル」の3 Rを進めます。すりーあーる
- ごみをすてたりせずに、きちんとせいそうセンターなどでしよりをすることを進めます。
- リサイクルに関係する会社のしごとがうまく進むように手だすけをします。

群馬県は、なぜこのような「群馬県循環型社会づくり推進計画」をつくったのか理由を考えてみましょう。

☆群馬県の取り組み② 「ぐんま3R宣言」 すりーあーるせんげん



群馬県のごみの量はとても多く、ごみの量をもっとへらすことがひつようです。そこで、群馬県では「ぐんま3R宣言」の取組をはじめています。ごみをへらすには、一人一人が毎日の生活の中で、少し

ずつ3Rを行っていくことが大切です。ぐんま3R宣言は、身近に行うことができる3Rの取り組みをそれぞれが決め、その取り組みを続けて行うことをおうえんするものです。

「ぐんま3R宣言」の取り組みを行うとどんなよいことがあるのか考えてみましょう。

ごみをへらすために人々がしていること その1

☆ごみをへらしたり、資源として生かしたりするために、地いきの人々はいろいろな取り組みを行っています。それらの取り組みのよいところや大変なところを考え、自分たちはどのような工夫や取り組みができるか考えてみましょう

<家庭での取り組み>

わたしの家では、ごみの分別に熱心に取り組んでいます。アルミ缶、びんなど家でごみとなったものを種類ごとに分けて出しています。ごみの分別を行うには、家族みんなの協力が必要です。

また、フリーマーケットに出かけ、リサイクル品を買うことがあります。これは、ごみをへらすことにつながります。



<学校での取り組み>

校庭のそうじをして集めた落ち葉は、そのままですてずにたい肥にしています。学校にある花だんの花や生活科の学習で畑の野菜を育てるための肥料として使います。

また、学校で印刷やコピーをする時に使う紙は、できるだけ両面使うようにしています。ごみになってしまう紙をへらすように努めています。



<お店での取り組み>

お店では、入り口に食品トレーや牛乳パックの回収ボックスを置いて、お客さんに回収の協力をお願いしています。回収した食品トレーや牛乳パックは、リサイクル業者にわたし、もう一度食品トレーや牛乳パックに再生してもらいます。

また、買い物に来るときはお客さんにエコバックの持参をよびかけています。レジぶくろをへらし、ごみそのものをへらすこともたいせつです。多くのお客さんが、エコバックを利用してくれるようになりました。もっとエコバックを使ってくれる人がふえると、さらにごみをへらすことができると思います。



<地いきでの取り組み>

自治会は、同じ地いきに住む人々が自分たちの生活をよりよくするためにそしきされています。ごみの分別をていつけるために、自治会でチラシをつくりごみ置き場にはっています。また、もえないごみや資源ごみのしゅう集日に自治会の係の人がごみしゅう集場所を見回って、きまりを守ってごみが出されているか、指導しています。この活動をはじめてからは、自分の出すごみに一人一人がせきにんを持つようになり、ごみをしっかり分別するようになりました。ごみ出しのきまりをみんなが守れるようにしていきたいです。



ごみをへらすために人々がしていること その2

☆ごみをへらしたり、しげんとして生かしたりするために、毎日の生活を見つめなおし、自分たちはどのような工夫や取り組みができるか考えてみましょう

＜ごみの減量をよびかける標語を考え、みんなにつたえる＞

ごみたちが
へんしんするよ
リサイクル



エコバック
みんなが持てば
ごみはへる



ごみの量がふえると、ごみをもやすだけでなく、もやしたあとの灰の処理にも費用がかかります。ごみの量をへらすためには、資源ごみを原料にもどして使ったり、何度も使ったりしていくこともたいせつです。しかし、何よりたいせつなのは、ごみそのものをへらす工夫をすることです。

「住みよいくらしとごみ」の学習をふり振り返りながら、ごみをへらすことをよびかける標語をつくり、家族や地いきの人につたえましょう。また、標語でどんなことをみんなにつたえようと思ったか話し合ひましょう。

＜ごみをへらすために自分にできることをしょうかいするポスターをつくって、みんなにつたえる＞

やってみませんか？ 3R活動

○リデュース（ごみそのものをへらす）

買い物にはエコバックを持って行き、レジぶくろをもらわないようにする。



○リユース（くり返し使う）

シャンプーやリンスなどは、つめかえができる商品を買って、容器をくり返し使う。



○リサイクル（ごみを資源に変え、ふたたび利用する）

資源ごみを分別してごみしゅう集場所に出し、もう一度再利用する。



わたしたちや地いきのみんなが、ごみをへらすための取り組みをすれば、もっと住みよいまちになると思います。やってみませんか？

ごみをへらすために、わたしたちの身近なところで行われている取り組みに積極的に協力することがたいせつです。そのためには、身近なところでどのような取組が行われているかみんなに知ってもらうひつようがあります。

「住みよいくらしとごみ」の学習をして、ごみをへらすために自分にできることをポスターにまとめ、みんなにつたえます。ポスターには、ごみをへらすために自分にどんなことができるのかをイラストを入れながら書きます。

かんせいしたポスターは、学校内にけいじし、ごみをへらすために自分にできることをみんなにしょうかいします。

どんなことをしょうかいするか考えながら、ポスターをつくってみましょう。

ふるさとれきし マップ



（写真は、藤岡市の応永の塔）

資料集「ぐんまくん」を活用して、自分たちの住んでいる地いきの文化財について調べたことと群馬県の文化ざいのような文化ざいほごに対する取り組みを関連付けて、文化ざいについてもっと広く考えてみよう。



大切な言葉を説明している資料

<文化ざい>



昔から伝わる文化として、ねうち(物が持っている価値)のある物やわざ(物ごとを行うための方法)のことです。地いきには、人々が大切に伝えてきた文化ざいが残されています。その中には、国(県・市)などがほぞんしていくことを決めたものもあります。これを、国(県・市)指定文化ざいと言います。

写真は、中之条(なかのじょう)町にある薬師堂(やくしどう)です。薬師様は重い病気をなおし、すべての人を病気の苦しみから救ってくれる仏様と言われています。薬師堂は、今から400年以上前につくられたもので、薬師様がまつられています。

<祭り>



神様や仏様、そ先をまつることです。また、そのぎ式。地いきには、人々が受けついできた祭りがあります。祭りを通して、人々は元気になり、おたがいのむすびつきが強まります。

写真は、藤岡市で行われた藤岡まつりです。藤岡まつりは浅間(せんげん)神社と諏訪(すわ)神社の例祭(れいさい)です。

<きょう土げいのう>



地いき社会ですずっと続いており、その土地の祭りや行事で行われる音楽やおどりのことです。きょう土げいのうには、いわれがあります。歌やおどりの一つ一つに意味があり、受けついできた人たちの思いや願いがこめられています。

写真は、藤岡市で行われた飯玉(いいたま)神社の獅子舞(ししまい)です。獅子舞はしあわせをまぬくとともに、厄除け退治(やくよけたいじ)や悪魔払い(あくまばらい)として古くからつたわっています。

<年中行事>



毎年、決まった時期に行われる行事やぎ式のことです。家庭や決まった集団でくりかえし行われることが多いです。

写真は、藤岡市で行われたどんどんやきです。どんどんやきは小正月の1月15日にお正月かざりや書き初めなどを持ちよってもやす行事です。

群馬県の文化ざい その1

☆群馬県の文化ざい①

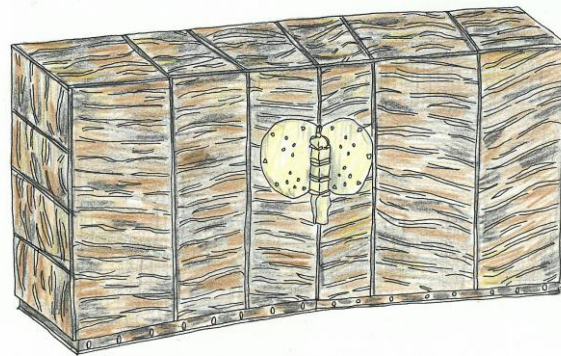
群馬県の文化ざいの数（平成27年）

文化ざいのしゅるい	国	県
ゆうけい 有形文化ざい	58	206
むけい 無形文化ざい	1	1
みんぞく 民俗文化ざい	7	25
きねんぶつ 記念物	72	187
合計	138	419

群馬県には、国がほぞんしていくことにした文化ざいが138けん、県がほぞんしていくことにした文化ざいが419けんあります。これらを合わせると557けんにもなります。

この中には、2014 年に世界文化いさんとしてとうろくされた
きゅうとみおかせいしじょう たかやましゃあと たじま やへいきゅうたく あらふねふうけつ
「旧 富岡製糸場」「高山社跡」「田島弥平旧宅」「荒船風穴」
もふくまれています。

自分たちの住んでいる地いきには、どんな文化ざいがあるかさがしてみましよう。

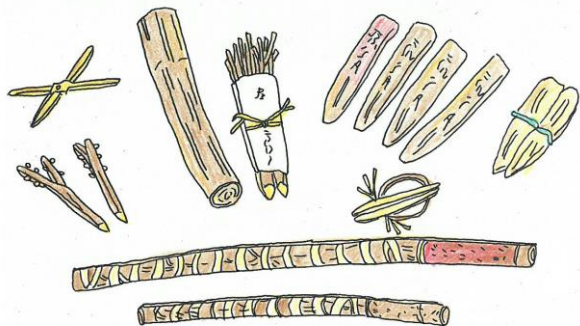


有形文化ざいは、たて物、美術品、歴史資料など目に見える文化ざいです。

写真は、玉村町の玉村八幡宮です。

無形文化ざいは、人のわざなど目に見えない文化ざいです。

絵は、木工芸家で人間国宝である須田賢司さんの作品(小だんす)です。



民俗文化ざいは、昔の人が着ていたふくや使っていた道具などの文化ざいです。

絵は、上しゅうの小正月ツクリモノ(かざり)です。

記念物は、古ふん、城あと、昔に人が住んでいたあと、めずらしい動植物や自然などの文化ざいです。

写真は、藤岡市の平地神社古ふん(古代のはかで当時身分の高い人をほうむったもの)です。

群馬県の文化ざい その2

☆群馬県の文化ざい②

国とうろく文化ざいたて物の数（平成23年）

じゅん位	都道府県名	国とうろく文化ざいのたて物の数	じゅん位	都道府県名	国とうろく文化ざいのたて物の数	じゅん位	都道府県名	国とうろく文化ざいのたて物の数
1位	大阪府	514	17位	岐阜県	181	33位	愛媛県	95
2位	兵庫県	505	17位	大分県	181	34位	鹿児島県	94
3位	長野県	368	19位	秋田県	166	35位	徳島県	92
4位	京都府	361	20位	島根県	159	36位	富山県	89
5位	香川県	349	21位	静岡県	157	37位	青森県	88
6位	愛知県	330	22位	神奈川県	155	37位	福井県	88
7位	新潟県	329	23位	千葉県	147	39位	長崎県	87
8位	群馬県	300	24位	鳥取県	142	40位	宮城県	84
9位	滋賀県	287	25位	和歌山県	132	41位	岩手県	80
10位	高知県	265	26位	埼玉県	126	42位	佐賀県	77
11位	東京都	263	27位	福島県	118	43位	宮崎県	70
12位	岡山県	236	28位	山形県	117	43位	沖縄県	70
13位	茨城県	231	29位	熊本県	110	45位	山口県	67
14位	石川県	201	30位	北海道	109	46位	福岡県	66
15位	奈良県	197	31位	広島県	104	47位	山梨県	58
16位	栃木県	188	32位	三重県	96			

群馬県の国とうろく文化ざいになっているたて物の数は、300 とうです。これは、都道府県別では8番目に多くなっています。（とうろく文化ざいは、国や県、市がほぞんしていくことにした指定文化ざいよりほぞんのためのせいげんがゆるやかな文化ざいです。）

☆群馬県の文化ざいのかだい（写真は藤岡市 一丁目の道標^{どうひょう}）



国や県、市は、文化ざいをほぞんし、のこそうしていますが、地いきに住む人々には、なぜ大切なのか意外と知られていません。文化ざいを身近に感じることができず「自分たちのもの」といういしきをもちにいくことがかだいとなっています。きょう土げいのうなどの文化ざいをほぞんしようとする人の数も少なくなってしまう、お年よりが中心のところも多くなっています。

自分たちのみのまわりにある文化ざいがなぜ大切なのか考えてみましょう。

文化ざいほごに対する群馬県の取り組み その1

☆群馬県の取り組み① 「群馬県文化ざい保護条例」(写真は、藤岡市 高山社跡)



群馬県では、昭和 51 年に県にとって重要なものを
ほぞんしたり、十分に生かして用いたりするためのき
まりをつくりました。それが群馬県文化ざい保護条例
です。(写真の高山社跡は、世界文化いさん「とみおか富岡
製糸場と絹産業遺産群」の一つで、たかやまちょうごろう高山長五郎が
ようさんほう養蚕法の研究と指導を行った場所です。)

具体的には次のようなきまりをさだめ、文化ざい
を守ろうとしています。

- 文化ざいとなっている植物を取ってはいけない。
- 文化ざいとなっている地めんをほってはいけない。
- 文化ざいの近くでたき火や花火をしてはいけない。

文化ざいは、私たち人間の長い歴史がきざまれたもので、今残っているただ一つのものかもしれません。ですから、一度なくしてしまうと、二度と私たちは見ることができなくなってしまいます。写真や絵だけでは感じとってもらえず、文化や正しい歴史を伝えていくことができません。そこで、群馬県では、この条例を作って、文化ざいをほぞんしていくこととしているのです。

☆群馬県の取り組み② 「文化ざい保護しんぎ会」

群馬県は、文化ざいについてくわしい人々が集まって、文化ざい保護しんぎ会をつくっています。現在ある文化ざいのほぞんじぎょうについて相談したり、新たにづいかしてほぞんしていく文化ざいの指定について話し合ったりします。

文化ざいほごに対する群馬県の取り組み その2

☆群馬県の取り組み③ 「群馬古ふんそうごうちょうさ」(写真は、藤岡市 ^{すわ}諏訪古ふん)



群馬県では、どこに、どのような古ふんが、どのくらいあるのかを平成24年度から4年間かけて調べています。群馬古ふんそうごうちょうさは、県がほこる古ふんのことをもっとたくさんの人々に知ってもらうのが目的です。このちょうさは、古ふんにくわしい人々だけでなく、県内に住む人々(県民調査員)もいっしょに調べています。自分たちが住んでいる地いきのれきしのよさをもう一度理解してもらうためです。(写真の諏訪古ふんは、昭和

13年に行われた群馬古ふんそうごうちょうさでかくにんされました。やく1500年前につくられ、長さが57mの古ふんです。)

前回のちょうさで群馬県には、8,423 基の古ふんがあることが確認されました。今回のちょうさで群馬県の古ふんは12,000 基をこえる見通しとなりました。

今、群馬県の古ふんのちょうさをしなければいけないのはなぜか考えてみましょう。

☆群馬県の取り組み④ 「^{でんとうぶん かけいしやうじぎやう}伝統文化継承事業」(写真は、藤岡市 ^{どし だいだいかぐら}土師神社太々神楽)



群馬県では、地いきにつたわる文化や風習をこれからも続けていくために、平成24年から伝統文化継承事業をはじめました。具体的に次のような取組をしています。

○古くからのこる地いきの文化をしょうかいしてたくさんの人に知ってもらうために、ぐんま地いき文化マップをつくりました。^{かぶき ししまい かぐ}歌舞伎や獅子舞、神楽などの「^{みんぞくげいのう}群馬の民俗芸能」や正月や^{ぼん}盆の行事などの「群馬の民俗行事」について、どこでどの

ように行われているかがわかります。

○群馬県にのこる重要な文化をこれからも守り伝えるためにぐんまの伝統文化ちょうさを行っています。

ぐんま地いき文化マップを使って、あなたの住む地いきには、どんな民俗芸能や行事があるのか調べてみましょう。

※ぐんま地いき文化マップのweb ページのアドレス <http://www2.gunmabunkazigyodan.or.jp/cgi-bin/>

「ふるさとれきしまっぷ」の学習についての資料

地いきにのこる文化を受けつぐために人々がしていること その1

☆わたしたちの身のまわりには、地いきの人々が受けついできた文化があります。さまざまなねがいがかめられた地いきの伝とう文化を自分たちも受けついでいくために、どのようなことができるか考えてみましょう

＜地いきの祭りや年中行事にさんかする＞



自分たちの住んでいる地いきには、人々が楽しみにしている祭りや年中行事があり、そこにはさまざまなねがいがかめられています。また、祭りや年中行事を受けつぐ人や多くの人の協力があって、今でもつづいているのです。地いきによっては、ほぞん会をつくって祭りや年中行事を大切にまもろうとしているところもあります。左の写真は、たかしょうまちまつりばやしほぞんかい藤岡市の鷹匠町祭囃子保存会の人たちが、地いきの子どもたちに祭囃子を教えているところです。

しかし、祭りや年中行事を受けつぐ人や行う場所が昔とくらべると少なくなり、やめてしまったところもあります。

子どもたちが、祭りや年中行事にさんかすることで、まちのことをしり、まちをもっとすきになってほしいと祭りや年中行事を受けついでいる人は、思っています。

「ふるさとれきしまっぷ」の学習で調べてきた祭りや年中行事の中から、自分がさんかできそうなものについて考えてみましょう。

＜文化ざいなどの古くからのこされているものを大切にする＞



古くからのこる文化ざいを守っていくために、地いきに住んでいる人々が進んでそうじをしているところもあります。これらの地いきでは、文化ざいを「自分たちのたから」と思う人も多いようです。

また、祭りをさかんにするために、子ども山車祭りをはじめたり、祭りのポスターや山車のデザインを子どもが考えたりしています。左は子どもが考えた山車のイラストです。今では、たくさんの子どもの祭りに参加するようになり、祭りを守り受けつぐわかい人がふえています。

地いきに古くからのこされているものを大切にしていけるために、自分ができることについて考えてみましょう。

地いきにのこる文化を受けつぐために人々がしていること その2

＜自分たちの住んでいる地いきのきょう土カルタをつくって、みんなにつたえる＞



きょう土カルタをつくるためには、まず、文化ざい、祭り、きょう土げいのうなど、地いきに古くからつたわるものの絵やしゃしんを入れて取りふだをつくります。

次に、ないようやいわれを調べながら文を考え、さいしょの文字がほかのふたと重ならないように読みふだをつくります。

きょう土カルタがかんせいしたら、みんなであそびながら、きょう土について学びましょう。

上の写真は、群馬県のきょう土カルタの上毛カルタです。1947 年につくられ、都道府県別のきょう土カルタでは、日本でもっとも早くつくられたものです。読みふだには、群馬県のさまざまな文化ざいや名所、名産、れきし上の人物などが読まれています。

また、群馬県では上毛カルタの他にたくさんの市町村や地いきのきょう土カルタがつくられており、その数は、全国1位です。下の表は、群馬県の主なきょう土カルタです。どんな文化をつたえているのでしょうか。

群馬県の主なきょう土カルタ

上毛かるた	上毛歴史歌留多	前橋かるた	下川淵カルタ
あずまかるた	富士見かるた	安中かるた	いせさきかるた
A S I T Aかるた	太田かるた	桐生かるた	わたらせかるた
渋川郷土かるた	渋川かるた	高崎かるた	富岡製糸場絵手紙かるた
館林かるた	館林郷土かるた	きりえ沼田かるた	あづまかるた
ふじおかかるた	草津かるた	高山かるた	孀恋かるた
中之条かるた	長野原町かるた	大泉かるた	めいわかるた
甘楽町かるた	妙義かるた	伊香保かるた	六合かるた
榛東村かるた	吉岡郷土かるた	群馬町かるた	箕郷町かるた
境町かるた	たまむら歌留多	赤城村文化財かるた	にいさとかるた
吉井かるた	川場かるた	新治かるた	新田かるた
やぶづかかるた	尾島かるた	吾妻町かるた	宮城よい子のかるた

「ふるさとれきしまっぷ」の学習で調べてきたことをもとにきょう土カルタをつくり、みんなにどんな地いきに古くからのこされている文化をつたえるか考えてみましょう。

地いきにのこる文化を受けつぐために人々がしていること その3

＜地いきにつたわる祭りや年中行事をしょうかいするカードをつくって、みんなにつたえる＞

しょうかいカード

【祭りや年中行事】

〇〇神社祭り

【いつ】

9月の第四日曜日

【どこで】

〇〇神社

【どんなことをするか】

みこしをかついでまちをねり歩く。また、笛やたいこでおはやしをえんそうして、それに合わせておどりをおどる。

【どんな思いがこめられているか】

作物のしゅうかくを神様に感謝し、実りがゆたかになることを願って、行われている。



「ふるさとれきしマップ」の学習をして、祭りや年中行事について分かったことをしょうかいカードにまとめ、みんなにつたえます。しょうかいカードには、祭りや年中行事の名前、いつ、どこで、どんなことをするか、どんな思いがこめられているのかを写真やイラストを入れながら書きます。

かんせいしたカードは、クラスのろうかにけいじし、地いきに古くからつたわる祭り

や年中行事をみんなにしょうかいします。

地いきに古くからつたわる祭りや年中行事にこめられた人々の思いを考えながらしょうかいカードをつくってみましょう。

社会科学学習指導案（４年〇組）

１ 単元名 「くらしをささえる水」

２ 考察

（１）教材観

① 学習内容：学習指導要領の位置付け

- ・ 第４学年 ２ 内容(５)
- ・ 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のこと（「飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」）を見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考える。

② 主な伸ばしたい資質・能力

- ・ 飲料水を確保する対策や事業への関心
- ・ 節水など水資源を守るための自分たちの取組に学習したことを生かそうとする意欲
- ・ 飲料水の確保に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考える力
- ・ 飲料水の確保が組織的・計画的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上が図られていることを考える力
- ・ 水の有効利用や節水のために自分にできることを判断する力
- ・ 飲料水の確保に関わる施設や設備を調査、見学したり、地図や統計などの資料を活用したりして必要な情報を集める力
- ・ 飲料水の確保の仕組や働きを読み取り、作品にまとめる力
- ・ 飲料水は、自分たちの生活や産業を支える大切な資源であり、飲料水を確保するための対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する力

③ そのために必要な指導・学習活動

- ・ 児童の気付きや課題意識を基に、単元を貫く学習課題を設定する。
- ・ 「群馬県の水の概要や水の課題の資料」を活用し、群馬県の水の特色や課題を調べ、理解する。
- ・ 「飲料水確保に対する群馬県の取組の資料」を活用し、安全な飲料水を確保するための取組をしなかったら自分たちの暮らしはどうなるかを考える。
- ・ 「水を大切にするために自分にできる取組の資料」を活用し、水を大切にするための取組のよさや大変さを考える。
- ・ 単元を通して学んだことを基に、生活に欠かせない水が、どこでどのようにつくり、送られてくるのか考え、単元を貫く学習課題についてまとめる。

④ 今後の学習の活用

- ・ 「住みよいくらしとごみ」の学習において、ごみの処理にかかわる対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを今の自分たちの生活とのつながりを意識しながら学習を展開する。

（２）児童の実態及び指導方針（男子〇名 女子〇名 計〇名）

① 既習の学習内容

- ・ ３年生で学習した前単元「じけんやじこがおきたら」において、警察署などの関係機関は地域の人々と協力しながらどのように事故や事件の防止に努めているのかを調べ、事故や事件から人々の安全を守るために関係機関がしている取組や人々が行っている工夫や努力について学習している。

② 本単元に関わる児童の実態及び指導方針

- ・ 児童は、前単元「じけんやじこがおきたら」において、人々の安全を守るための関係機関が行う働き

について学んでいる。地域の警察署などに従事する人々の様子を調べることを通して、関係機関は地域の人々と協力して、事故や事件の防止に努めていることを理解することができた。

- ・問題解決的な学習では、意欲的に調査活動に取り組むが、社会的事象の事実を把握するだけにとどまり、社会的事象相互のつながりを明らかにする段階までには至っていない。
- ・追究する過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と学習に関連する群馬県の概要や課題、群馬県として進めている取組の資料を活用し、群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることにより、社会的事象が持つ多様な面に気付かせる。
- ・追究する過程において、地域社会のために地域の人々が行っている取組の資料を活用し、自分たちの住んでいる地域のために自分にできることを考え、社会的事象を異なった立場から考察させる。
- ・考え・まとめる過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象を調べて分かったことと、資料集「ぐんまくん」を活用しながら考えたことを基に、特色としてどのようなことが見いだせるかをまとめ、グループで意見交換することにより、社会的事象の特色を広く捉えさせる。

3 研究とのかかわり

協力校の児童の学習状況を見ると、調べ学習には意欲的に取り組むが、社会的事象相互がどのようにつながっているかを適切に説明できない児童が多く、調べ学習がただ社会的事象の事実を把握するだけになってしまい、社会的事象の特色を解釈するまでには至っていない。知識の事実認識で終わらずに、社会的事象相互を比較・関連付けながら、どのようにつながっているか説明し、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めることが重要である。

そこで、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を育むために、問題解決的な学習に群馬県の統計や行政の取組などを知る具体的な資料を活用し、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考える活動を取り入れていくことが大切であると考え。これらを通して、特色としてどんなことが見られるかを探っていくことができるようにする。社会的事象について調べたり考えたりしたことをつなかりを説明しながら特色をまとめることにより、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めていくようにする。

以上のように本単元において、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるために、資料集「ぐんまくん」を活用しながら、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることは有意義なことだと考える。

4 単元の目標

- ・飲料水の確保と自分たちの生活や産業との関わりやこれらに関わる対策や事業が、計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、節水など水資源を守るために協力できることを考え、進んで取り組もうとする。
- ・飲料水を確保するための対策や事業から学習問題を見だし、施設・設備を調査、見学したり、資料を活用したりして調べたことを作品にまとめるとともに、これらの対策や事業が地域の人々の健康の維持向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する。

5 指導計画（全 14 時間予定）

評価 規 準	関心・意欲・態度	飲料水を確保する対策や事業に関心を持ち、見学、調査や資料の活用を通して意欲的に調べるとともに、節水など水資源を守るための自分たちの取組に学習したことを生かそうとしている。
	思考・判断・表現	飲料水の確保に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現するとともに、飲料水の確保が組織的・計画的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上が図られていることを考えたり、水の有効利用や節水のために自分にできることを判断したりして、それらを適切に表現している。

	観察・資料活用 の技能		飲料水の確保に関わる施設や設備を調査、見学したり、地図や統計などの資料を活用したりして必要な情報を集め、飲料水の確保の仕組みや働きを読み取り、作品にまとめている。
	知識・理解		飲料水は自分たちの生活や産業を支える大切な資源であり、これを確保するための対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。
時間	過程	資料集「ぐんまくん」 で提示する主な項目	主な学習活動
第1時から第2時	つかむ		<ul style="list-style-type: none"> 健康で住みよい暮らしを支えている仕組みや人々の働きについて考える。 生活のどんな場面で水を使っているかを振り返り、使っている場面の様子を絵や文に表し、発表する。
		<ul style="list-style-type: none"> 大切な言葉の説明「給水」 	<ul style="list-style-type: none"> 一日にどれくらい水を使うかを予想する。 実際に一日に使う水の量を牛乳パックで表し、感想を発表する。 自分たちの住んでいる市の人口の変化と給水量のグラフ、水を手に入れる方法の移り変わりを比べ、気付いたことから学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学習課題>わたしたちの生活に欠かせない水は、どこでどのようにしてつくられ、送られてくるのでしょうか。</p> </div>
第3時から第12時	追究する	<ul style="list-style-type: none"> 大切な言葉の説明「浄水場」 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの使う水はどこから送られてくるのか予想する。 学校にある水道施設を調査して蛇口の水はどこからきているのか水の流れを逆にたどって調べ、市内にある水道に関連する施設や設備に気付く。 地図や写真などを用いて、自分たちの使う水が送られてくる経路を調べる。 水が送られてくる経路を調べて気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。 浄水場見学の計画を立てる。(2時間)
			<ul style="list-style-type: none"> 浄水場を見学して、水がどのようにしてきれいで安全な飲料水になるのかを調べる。 きれいにするための機械や設備の仕組みを見付けたり、きれいにするための工夫を働いている人に聞いたりして、ワークシートにメモする。 写真を見たり地図を使ったりして、浄水場まで水がどのように送られてくるのか、また家庭に送られるのかを調べる。 浄水場が自分たちの生活に果たす役割について考え、まとめる。(3時間)
		<ul style="list-style-type: none"> 大切な言葉の説明「ダム」 	<ul style="list-style-type: none"> 神流川の水はどこからやってくるのか、地図帳を基に調べ、気付いたことを発表する。 ダムで働く人にインタビューしてダムの働きについて調べる。 過去の水利用の苦心や水を確保するための努力について調べる。
		<ul style="list-style-type: none"> 大切な言葉の説明「水源の森」 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳やパンフレットなどの資料を用いてダムの更に上流の水源林の様子や働きを調べ、分かったことを発表する。 水源や水源林を守る活動に携わる人や活動に協力する群馬県の担当者にインタビューしてきれいな川の水をどのようにして守っているのか調べる。 ダムと水源林に共通する働きについて考える。

			<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる市町村で使われる水の量が、あまり増えていないわけを考える。 ・水を大切に使うことが大事なわけを考え、水を無駄にしないための工夫を調べる。 ・大切な水を利用するため、どんなことに気を付ければ良いのか、水との付き合い方を考える。
			<ul style="list-style-type: none"> ・資料などを用いて使った後の水のゆくえを調べる。 ・下水処理施設の働きを調べる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県の概要「群馬県の水」 ・群馬県の取組「飲料水確保に対する群馬県の取組」 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集「ぐんまくん」を活用し、群馬県の水や川の特徴を調べる。 ・飲料水を確保するために群馬県として進めている取組を調べる。 ・群馬県が飲料水を確保するための取組をしている理由を考える。
第13時から第14時	考え・まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にできること「水を大切にするために人々がしていること」 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集「ぐんまくん」を活用し、水を大切にするために人々が行っている取組の良いところを見いだす。 ・実現するためにはどのような工夫をすればよいかグループで話し合い、水を大切にするために自分にできることを考える。 ・水を大切にするために自分にできることをグループで紹介しながら意見交換する。 ・これまでに学習したことを振り返り、自分たちにできることを考え、話し合う。
			<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに調べたことを基に学習課題に対する答えやこの学習で学んだことを文章にまとめる。 ・学習課題に対する答えやこの学習で学んだことをグループで意見交換する。

＜資料集「ぐんまくん」で提示する主な項目＞

- 大切な言葉を説明している資料
- 群馬県の水や川の特徴の資料
- 飲料水確保に対する群馬県の取組の資料
- 水を大切にするために人々が行っている取組の資料

6 展開

(1) 12時間目／14時間

① ねらい

群馬県の水や川の特徴を調べ、群馬県が安全な水の確保に取り組んでいる理由を考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート、

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜学習課題＞群馬県の水や川について知り、安全な水を確保するためにしている取組について考えよう。</p> </div>		
・資料集を使って群馬県全体の水や川がどうなっている		

るか考えよう。		
<p>2 資料集「ぐんまくん」を使いながら群馬県の水や川について分かったことを探し、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県のきれいな川は、山の方に多く、汚れている川は、平地の方に多い。 ・群馬県の川を汚している理由で多いのは、家庭から出る生活排水である。 ・きれいな川を守るために、下水道や浄化槽で生活排水をきれいにした後、川に戻している。 	12	○資料の読み取りから群馬県全体の水や川の特徴をつかませる。
<p>3 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。</p> <p>4 意見交換したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する</p>	8	○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。
<p>5 資料集「ぐんまくん」を使いながら安全な水を確保するために群馬県がしている取組を探し、分かったことや考えたことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道水安全性検査を行い、川の水や地下水が浄水場で安全な水としてつくられているか確かめている。 ・毎日の生活や産業を支えている水の貴重さを分かってもらうために、ぐんまウォーターフェアを行っている。 ・飲み水として使っている川の水の中に農薬や有害な物質が入り込んでいるかを調べるために、群馬県水道水質監視をしている。 ・水不足になっても困らないようにするため、水の使用量を予想しながら、計画的にダムを作っている。 ・群馬県が安全な水を確保するための取組をしなかったら、安心して水を使うことができなくなり、困ってしまう。 ・群馬県が安全な水を確保するための取組をしているので、安心して水を使うことができ、健康な生活や良質な生活環境の維持と向上に役立っている。 	14	<p>○群馬県が安全な水を確保するための取組をしなかったら自分たちの暮らしはどうなるか考えることを通して、群馬県が安全な水の確保に取り組んでいる理由に目を向けさせる。</p> <p>◎記述が進まない児童には、群馬県が安全な水を確保するための取組をすると、どんな良いことがあるか考えさせ、記述を促す。</p> <p>○自分たちの住んでいる地域の飲料水の事業について調べたことと群馬県の様子や取組を比較・関連付けながら考えるよう促す。</p>
<p>6 ワークシートに書いたことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。</p>	6	<p>○クラス全体での発表で、自分と友達の考えを比較させ、自分にはない考えに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇群馬県が安全な水の確保に取り組む理由を考え、ワークシートに書いている。(ワークシート)【思考・判断・表現】</p> </div>
<p>7 学習のまとめをし、次時の学習を知る。</p>	3	<p>○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。</p> <p>○次時に、水を大切にするために自分にできることを考える学習をすることを伝える。</p>

(2) 13 時間目／14 時間

① ねらい

根拠を明らかにしながら水を大切にするために自分にできることを考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
＜学習課題＞水を大切にするために、自分にできることを考えよう。		
・資料集を使って自分に何ができるか考えよう。		
2 なぜ水を大切にすべきなのか理由を考え、ワークシートに書く。 ・自分たちが使う水には限りがあるから。 ・安全な水をつくるためには、たくさんの人の力とエネルギーが必要だから。	7	○これまでに学習してきたことを基に具体的に記述するよう助言する。 ◎記述が進まない児童には、どのようにして自分たちが使う水がつくられたのかを思い出させ、それを基に書くよう助言する。 ○自分と友達の考えを比較させ、自分がない考えに気付かせる。
3 ワークシートに書いたことを発表し、自分がない考えを加筆・修正する。		
4 資料集「ぐんまくん」を使いながら水を大切にするために人々が行っている取組の良いところや大変なところを考え、ワークシートに書く。	16	
5 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。	10	○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。
6 意見交換したことを発表し、自分がない考えを加筆・修正する。		
7 水を大切にするために自分にできることを考え、ワークシートに書く。	7	○水を大切にするための方策について実現するための工夫も書かせ、自分なりのプランを考えさせる。 ○自分たちの住んでいる地域の飲料水の事業について調べたことと地域の人々が行っている取組を比較・関連付けながら考えるよう促す。
8 ワークシートに書いたことを発表する。		○水を大切にするために自分にできることを考える活動を通して、自分自身も実践していこうとする意識を持たせる。 ◇明確な根拠（実現可能性）を示しながら水を大切にするために自分にできることを考え、ワークシートに書いている。（ワークシート）【思考・判断・表現】
9 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に、単元を貫く学習問題の答えを導き出す学習をすることを伝える。

(3) 14 時間目／14 時間

① ねらい

飲料水を確保するためにどのような対策や事業が行われているかを理解することができる。

飲料水を確保するための対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の向上に役立っていることを考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
＜学習課題＞「くらしをささえる水」の学習の学習課題の答えをまとめ、友達に説明しよう。		
・これまで学習してきたことを基に答えをまとめ、説明しよう。		○単元を貫く学習課題の内容を確認し、どのように追究すればよいかの見通しを具体的に持たせる。
2 学習課題の答えや学習をして学んだことをワークシートに書く。	25	○これまでに調べ記入してきたワークシートを基に学習問題の答えを導き出し、ワークシートにまとめるよう指示する。 ◎記述が進まない児童には、川の水が浄水場でどのようにきれいにされているかをワークシートから探し、書くよう促す。
3 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。 4 意見交換したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。 ・くらしをささえる水の学習をして、生活に欠かせない水は、川から取り入れた水を浄水場できれいにし、送られてくることが分かった。わたしたちが使う水を確保するための様々な取組は、地域の人々が住みよい環境の中で健康な生活をするのに役立っている。これからは、限りある資源である水を大切に使いたい。	15	○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。 ◇生活に欠かせない水が、どこでどのようにしてつくられ、送られてくるのを理解し、ワークシートに書いている。 （ワークシート）【知識・理解】
5 学習のまとめをする。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。

社会科学学習指導案（4年〇組）

1 単元名 「住みよいくらしとごみ」

2 考察

(1) 教材観

① 学習内容：学習指導要領の位置付け

・第4学年 2 内容(3)

・地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のこと（「飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」）を見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考える。

② 主な伸ばしたい資質・能力

- ・ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業への関心
- ・生活の中での取組にごみの減量やリサイクルなど学習したことを生かそうとする意欲
- ・ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活の維持と向上に役立っていることを考える力
- ・ごみの減量や資源の有効利用のために、生活の中で自分たちにできることを判断する力
- ・ごみの処理や有効利用に関わる施設を調査・見学したり、統計資料を活用したりして必要な情報を集める力
- ・ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業が計画的、協力的に進められ、自分たちの生活や産業を支える大切な取組であることを理解する力

③ そのために必要な指導・学習活動

- ・児童の気付きや課題意識を基に、単元を貫く学習課題を設定する。
- ・「群馬県のごみ処理の概要やごみ処理の課題の資料」を活用し、群馬県のごみ処理の特色や課題を調べ、理解する。
- ・「ごみ処理に対する群馬県の取組の資料」を活用し、ごみ処理に向けた取組をしなかったら自分たちの暮らしはどうなるかを考える。
- ・「ごみを減らすために自分にできる取組の資料」を活用し、ごみを減らすための取組のよさや大変さを考える。
- ・単元を通して学んだことを基に、分けて集められたごみや資源が、どのように処理・再利用されているかを考え、単元を貫く学習課題についてまとめる。

④ 今後の学習の活用

- ・「昔のくらし」の学習において、身の回りの古い道具には昔の人の生活の知恵や工夫が込められており、道具の変化とともに地域の暮らしも変化し、便利になってきたことを今の自分たちの生活とのつながりを意識しながら学習を展開する。

(2) 児童の実態及び指導方針（男子〇名 女子〇名 計〇名）

① 既習の学習内容

- ・前単元「くらしをささえる水」において、生活に欠かせない水がどこでどのようにしてつくられ、送られているかを調べ、飲料水を確保するための対策や事業は、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを学習している。

② 本単元に関わる児童の実態及び指導方針

- ・児童は、前単元「くらしをささえる水」において、生活にとって必要な飲料水の確保についての学習をしている。浄水場の見学を通して、水がどこでどのようにしてつくられ、送られているかを理解することができた。しかし、学習のまとめの作文を見ると飲料水の安定供給のために川の上流、中流、下流に住んでいる人々の果たす役割について書いている児童は少なかった。このことから、飲料水の確保が、

他地域の人々の協力を得ながら成り立っていることを十分考えられている児童は少ないと言える。

- ・問題解決的な学習では、意欲的に調査活動に取り組むが、社会的事象の事実を把握するだけにとどまり、事象相互のつながりを明らかにする段階までには至っていない。
- ・追究する過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と学習に関連する群馬県の概要や課題、群馬県として進めている取組の資料を活用し、群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることにより、社会的事象が持つ多様な面に気付かせる。
- ・追究する過程において、地域社会のために地域の人々が行っている取組の資料を活用し、自分たちの住んでいる地域のために自分にできることを考え、社会的事象を異なった立場から考察させる。
- ・考え・まとめる過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象を調べて分かったことと、資料集「ぐんまくん」を活用しながら考えたことを基に、特色としてどのようなことが見いだせるかをまとめ、グループで意見交換することにより、社会的事象の特色を広く捉えさせる。

3 研究とのかかわり

協力校の児童の学習状況を見ると、調べ学習には意欲的に取り組むが、社会的事象相互がどのようにつながっているかを適切に説明できない児童が多く、調べ学習がただ社会的事象の事実を把握するだけになってしまい、社会的事象の特色を解釈するまでには至っていない。知識の事実認識で終わらずに、社会的事象相互を比較・関連付けながら、どのようにつながっているか説明し、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めることが重要である。

そこで、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を育むために、問題解決的な学習に群馬県の統計や行政の取組などを知る具体的な資料を活用し、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考える活動を取り入れていくことが大切であると考え。これらを通して、特色としてどんなことが見られるかを探っていくことができるようにする。社会的事象について調べたり考えたりしたことのつながりを説明しながら特色をまとめることにより、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めていくようにする。

以上のように本単元において、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるために、資料集「ぐんまくん」を活用しながら、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることは有意義なことだと考える。

4 単元の目標

ごみの処理や有効利用と自分たちの生活や産業との関わりや、これらに関わる対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの減量やリサイクルなど自分たちに協力できることを考え、進んで取り組もうとする。

ごみの処理や有効利用の諸活動から学習問題を見だし、施設・設備を調査、見学したり資料を活用したりして調べたことを作品にまとめるとともに、これらの対策や事業が地域の人々の健康の維持向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する。

5 指導計画（全 13 時間予定）

評価 規 準	関心・意欲・態度	ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業に関心をもち意欲的に調べるとともに、ごみの減量やリサイクルなど、生活の中での取組に学習したことを生かそうとしている。
	思考・判断・表現	ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活の維持と向上に役立っていることを考えたり、ごみの減量や資源の有効利用のために、生活の中で自分たちにできることを判断したりして、それらを適切に表現している。

	観察・資料活用 の技能		ごみの処理や有効利用に関わる施設を調査・見学したり、統計資料を活用したりして必要な情報を集め、ごみの処理や有効利用の様子やそれらが計画的、協力的に進められていることを読み取って、作品にまとめている。
	知識・理解		ごみの処理や有効利用は自分たちの生活や産業を支える大切な取組であり、これらの対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。
時間	過程	資料集「ぐんまくん」 で提示する主な項目	主な学習活動
第1時から第4時	つ か む		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭からどのようなごみが出されているのか思い起こす。 ・ごみの種類調べを始める。 ・1週間で家庭からどのようなごみが出るか予想する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ調べをした結果を見ながら、その種類など気付いたことを発表する。 ・自宅近くの収集場所を地図に書き入れる。
		・大切な言葉の説明「ごみの分別」	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を使って、ごみを具体的に分別する。 ・なぜ分別してごみを出すようにしているのか考える。 ・資料を参考にして藤岡市のごみの出し方の種類を考える。
		・大切な言葉の説明「ごみ収集」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の収集場所の地図を作り、効率のよい収集方法を考える。 ・なぜ集める日が違うのか、いくつに分けてごみを出すのか、集めたごみはどこに行くのかを考える。 ・ごみの収集について調べたことや考えたこと、学んで分かったことを文章に書く。 ・学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <学習課題>分けて集められたごみや資源は、どのようにして処理されたり、再利用されたりするのでしょうか。 </div>
第5時から第11時	追 究 す る		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃センター見学について話し合う。 ・清掃センターで聞きたいことを考え整理する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・見学したり質問したりして分かったことをメモしながら清掃センターを見学する。 ・クリーンセンターについて知る。(2時間)
			<ul style="list-style-type: none"> ・清掃センターで見学したことを基に、燃やせるごみがどのように処理されているかをノートにまとめる。 ・なぜごみの収集を有料化する地域があるのか理由について話し合う。
		・大切な言葉の説明「リサイクル」	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃センターで見学したことを基に、資源ごみがどのように処理されているかをノートにまとめる。 ・リサイクルによる資源の有効利用について、その大切さを話し合う。
			<ul style="list-style-type: none"> ・商店での買い物为例にとり、昔と今の比較をする。 ・昔と今のごみ処理の違いについて考える。 ・家で聞いたことを基に絵で表す。
		・群馬県の概要「群馬県のごみ処理」 ・群馬県の取組「ごみ処理の問題に対する群馬県の取組」	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集「ぐんまくん」を活用し、群馬県のごみやごみ処理の特色を調べる。 ・ごみ処理の問題を解決するために群馬県として進めている取組を調べる。 ・群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をしている理由を考える。

第 12 時 か ら 第 13 時	考 え ・ ま と め る	・ 自分にできること「ごみを減らすために人々がしていること」	・ 資料集「ぐんまくん」を活用し、ごみを減らすために人々が行っている取組の良いところを見いだす。 ・ 実現するためにはどのような工夫をすればよいかグループで話し合いごみを減らすために自分にできることを考える。 ・ ごみを減らすために自分にできることをグループで紹介しながら意見交換する。 ・ これまでに学習したことを振り返り、自分たちにできることを考え、話し合う。
			・ これまでに調べたことを基に学習課題に対する答えやこの学習で学んだことを文章にまとめる。 ・ 学習課題に対する答えやこの学習で学んだことをグループで意見交換する。

＜資料集「ぐんまくん」で提示する主な項目＞

- 大切な言葉を説明している資料
- 群馬県のごみやごみ処理の概要の資料
- ごみ処理の問題に対する群馬県の取組の資料
- ごみを減らすために人々が行っている取組の資料

6 展開

(1) 11 時間目／13 時間

① ねらい

群馬県のごみやごみ処理の特色を調べ、群馬県がごみ処理の問題解決に向けた取組をしている理由を考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート、

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ＜学習課題＞群馬県のごみやごみ処理について知り、ごみ処理の問題を解決するために進めている取組について考えよう。 </div>		
・資料集を使って群馬県全体のごみやごみ処理は、どうなっているか考えよう。		
2 資料集「ぐんまくん」を使いながら群馬県のごみやごみ処理について分かったことを探し、ワークシートに書く。 ・群馬県の人が出すごみの量は、一人1年当たり 383k で都道府県別で四番目に多い。 ・群馬県のごみを処理する費用は、一人1年当たり 10286 円である。	12	○資料の読み取りから群馬県全体のごみやごみ処理の特色をつかませる。

3 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。	8	○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。
4 意見交換したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。		
5 資料集「ぐんまくん」を使いながらごみ処理の問題を解決するために群馬県が進めている取組を探し、分かったことや考えたことをワークシートに書く。 ・群馬県循環型社会づくり推進計画を作って、ごみを減らし、資源を利用することを積極的に進めようとしている。 ・一人一人が毎日の生活の中で3Rを行い、ごみを減らすためにぐんま3R宣言の取組を行っている。 ・群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をしなかったら、ごみが増え、汚れた町になってしまう。 ・群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をしているので、ごみが減り、住みよい暮らしをつくるのに役立っている。	14	○群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をしなかったら自分たちの暮らしはどうなるか考えることを通して、群馬県がごみ処理の問題解決に向けて取り組んでいる理由に目を向けさせる。 ◎記述が進まない児童には、群馬県がごみ処理の問題を解決するための取組をすると、どんな良いことがあるか考えさせ、記述を促す。 ○自分たちの住んでいる地域のごみ処理の事業について調べたことと群馬県の様子や取組を比較・関連付けながら考えるよう促す。
6 ワークシートに書いたことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。	6	○クラス全体での発表で、自分と友達の考えを比較させ、自分にはない考えに気付かせる。 <div>◇群馬県がごみ処理の問題解決に向けて取り組んでいる理由を考え、ワークシートに書いている。(ワークシート) 【思考・判断・表現】</div>
7 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に、ごみを減らすために自分にできることを考える学習をすることを伝える。

(2) 12 時間目／13 時間

① ねらい

根拠を明らかにしながらごみを減らすために自分にできることを考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
＜学習課題＞ごみを減らすために、自分にできることを考えよう。		
・資料集を使ってどんなことが自分にできるか考えよう。		
2 なぜごみを減らすべきなのか理由を考え、ワークシートに書く。 ・ごみを減らさないと、資源が足りなくなるから。	7	○これまでに学習してきたことを基に具体的に記述するよう助言する。 ◎記述が進まない児童には、どのようにし

<ul style="list-style-type: none"> ・ごみが減ると、クリーンセンターを長く使うことができるから。 ・ごみが減ると、ごみを処理する費用が少なくなり、その分違うことにお金を使うことができるから。 <p>3 ワークシートに書いたことを発表し、自分ない考えを加筆・修正する。</p>		<p>て自分たちが出したごみが処理されたのかを思い出させ、それを基に書くよう助言する。</p> <p>○クラス全体での発表で、自分と友達の考えを比較させ、自分ない考えに気付かせる。</p>
<p>4 資料集「ぐんまくん」を使いながらごみを減らすために人々が行っている取組の良いところや大変なところを考え、ワークシートに書く。</p>	16	
<p>5 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。</p> <p>6 意見交換したことを発表し、自分ない考えを加筆・修正する。</p>	10	<p>○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。</p>
<p>7 ごみを減らすために自分にできることを考え、ワークシートに書く。</p> <p>8 ワークシートに書いたことを発表する。</p>	7	<p>○ごみを減らすための方策について実現するための工夫も書かせ、自分なりのプランを考えさせる。</p> <p>○自分たちの住んでいる地域のごみ処理の事業について調べたことと地域の人々が行っている取組を比較・関連付けながら考えるよう促す。</p> <p>○ごみを減らすために自分にできることを考える活動を通して、自分自身も実践していこうとする意識を持たせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇明確な根拠（実現可能性）を示しながらごみを減らすために自分にできることを考え、ワークシートに書いている。（ワークシート）【思考・判断・表現】</p> </div>
<p>9 学習のまとめをし、次時の学習を知る。</p>	3	<p>○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。</p> <p>○次時に、単元を貫く学習問題の答えを導き出す学習をすることを伝える。</p>

(3) 13 時間目／13 時間

① ねらい

ごみの処理に関わる対策や事業がどのように行われているかを理解することができる。

ごみを処理するための対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の向上に役立っていることを考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
-----------------------	----	---------------------------------------

1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<div> <学習課題>「住みよいくらしとごみ」の学習の学習課題の答えをまとめ、友だちに説明しよう。 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきたことを基に答えをまとめ、説明しよう。 		○単元を貫く学習課題の内容を確認し、どのように追究すればよいかの見通しを具体的に持たせる。
2 学習課題の答えや学習をして学んだことをワークシートに書く。	25	○これまでに調べ記入してきたワークシートを基に学習課題の答えを導き出し、ワークシートにまとめるよう指示する。 ◎記述が進まない児童には、実際に調べた燃やせるごみ、資源ごみは、それぞれどのように処理されているかをワークシートから探し、書くよう促す。
3 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。 4 意見交換したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。 <ul style="list-style-type: none"> 住みよいくらしとごみの学習をして、燃やせるごみは、清掃センターで燃やして処理され、資源ごみは、再利用され、資源の節約に役立っていることが分かった。ごみを処理するための様々な取組は、計画的・協力的に進められ、人々の住みよい暮らしをつくるために役立っている。これからは、ごみを減らしたり、3Rに協力したりしたい。 	15	○グループでの意見交換やクラス全体での発表を通して新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。 <div> ◇分けて集められたごみや資源がどのように処理・再利用されているかを理解し、ワークシートに書いている。(ワークシート)【知識・理解】 </div>
5 学習のまとめをする。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。

社会科学学習指導案（４年〇組）

1 単元名 「ふるさとれきしまップ」

2 考察

(1) 教材観

① 学習内容：学習指導要領の位置付け

- ・第4学年 2 内容(5)
- ・地域の人々の生活について、「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考える。

② 主な伸ばしたい資質・能力

- ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事への関心
- ・文化財や年中行事への愛着をもって、その保存・継承について考えようとする意欲
- ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事について、学習問題や予想、学習計画を考える力
- ・文化財や年中行事に込められた地域の人々の願いや保存・継承するための努力について判断する力
- ・地域の文化財や年中行事を見学・調査したり、保存・継承に携わる人から話を聞いたりして必要な情報を集める力
- ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の様子や、それらには地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いが込められていることの理解

③ そのために必要な指導・学習活動

- ・児童の気付きや課題意識を基に、単元を貫く学習課題を設定する。
- ・「群馬県の文化財の概要や文化財保護の課題の資料」を活用し、群馬県の文化財の特色や課題を調べ、理解する。
- ・「文化財保護に対する群馬県の取組の資料」を活用し、保護する取組をしなかったら文化財はどうなるかを考える。
- ・「地域に残る文化を受け継ぐために自分にできる取組の資料」を活用し、受け継ぐための取組のよさや大変さを考える。
- ・単元を通して学んだことを基に、地域の文化財や年中行事に込められた人々の願い、保存・継承するための努力について考え、単元を貫く学習課題についてまとめる。

④ 今後の学習の活用

- ・「養蚕の発展に尽くした人々」の学習において、だれがどのような思いや願いを持ちながら地域の生活向上のために尽くしたか、今の自分たちの生活とのつながりを意識しながら学習を展開する。

(2) 児童の実態及び指導方針（男子〇名 女子〇名 計〇名）

① 既習の学習内容

- ・前単元「昔のくらし」において、道具の工夫によって人々の暮らしがどのように変わってきたのかを調べ、身の回りの古い道具には昔の人の生活の知恵や工夫が込められており、道具の変化とともに地域の暮らしも変化し、便利になってきたことを学習している。

② 児童の実態及び指導方針

- ・児童は、前単元「昔のくらし」において、古くから残る暮らしにかかわる道具について学んでいる。昔の道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子を調べることを通して、地域の人々の生活の今昔の違いや変化、過去の生活における人々の生活の知恵を考えることができた。
- ・問題解決的な学習では、意欲的に調査活動に取り組むが、社会的事象の事実を把握するだけにとどまり社会的事象相互のつながりを明らかにする段階までには至っていない。
- ・追究する過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と学習に関連する群馬県の概要や課題、県として進めている取組の資料を活用し、群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることにより、社会的事象が持つ多様な面に気付かせる。
- ・追究する過程において、地域社会のために地域の人々が行っている取組の資料を活用し、自分たちの住

んでいる地域のために自分にできることを考え、社会的事象を異なった立場から考察させる。

- ・考え・まとめる過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象を調べて分かったことと、資料集「ぐんまくん」を活用しながら考えたことを基に、特色としてどのようなことが見いだせるかをまとめ、グループで意見交換することにより、社会的事象の特色を広く捉えさせる。

3 研究とのかかわり

香川県教育センター(2011)の研究によると、観察や調査・見学と関連付けて資料を活用する力を育てる指導を行うことにより、様々な視点で社会的事象を捉え、社会的事象に対する見方を深めたり広げたりすることができるようになったとある。観察や調査・見学に基づいて写真などの具体的な資料を提示することにより、社会的事象を生活経験と結び付けながら考えることができた。また、観察や調査・見学をして収集した情報を基に絵地図やグラフ、図などの資料を作成し意見交流することにより、社会的事象の特色や相互の関連をとらえることにつながった。岩手大学教育学部附属小学校(2014)の研究によると、自分自身と社会的事象の距離を縮め、切実かつ実感を伴って考えさせるための資料を提示し、人の営みや社会との関わりについて考えることにより、社会的事象を自分事として捉える力を高めることにつながったとある。自分の生活とのつながりや多面的・多角的な考え方に着目した資料を提示し、それを基に社会との関わり方について見つめ直すことで、社会的な見方や考え方を広げることができたとある。

以上の先行研究から、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるためには、資料を効果的に活用しながら社会的事象を比較・関連付け・総合する活動を行うことが有効であることがわかった。しかし、小学校の地域学習において、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるためにどのような資料を取り入れるとよいかは、十分に明らかにされていない。そこで、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるために、社会的事象について「群馬県全体では」という広い視野から考える資料集「ぐんまくん」を作成し、活用しながら自分たちの住んでいる地域の社会的事象を考える学習の有効性を明らかにする研究を行うことは、有意義なことだと考える。

4 単元の見どころ

- ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の様子や、それらには地域の生産活動やまちの発展、人のまとまりなどへの願いが込められていることを理解し、地域社会に対する誇りと愛情を持とうとする。
- ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事から学習問題を見だし、見学・調査したり、保存・継承に携わる人から話を聞いたりして調べたことを作品にまとめるとともに、文化財や年中行事に込められた地域の人々の願いや保存・継承するための努力について考え、表現する。

5 指導計画（全10時間予定）

評価 規 準	関心・意欲・態度	地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事に関心をもち、見学や調査活動を通して意欲的に調べ、これらへの愛着を持って、その保存・継承について考えようとする。	
	思考・判断・表現	地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現するとともに、文化財や年中行事に込められた地域の人々の願いや保存・継承するための努力について思考・判断したことを適切に表現している。	
	観察・資料活用 の技能	地域の文化財や年中行事を見学・調査したり、保存・継承に携わる人から話を聞いたりして必要な情報を集めて調べたことを作品にまとめている。	
	知識・理解	地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の様子や、それらには地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いが込められていることを理解している。	
時 間	過 程	資料集「ぐんまくん」 で提示する主な項目	主な学習活動

第1時	つかむ		<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地域の祭りや年中行事、古くから残る建物などの写真を見て、知っていることや疑問に思ったこと、自分たちが参加した経験を発表する。 ・地域にはどんな古い物や続いていることがあるのか話し合う。 ・地域に残る古い物や参加したことがある祭りや年中行事を基に詳しく調べることを決める。 ・学習問題をつくり、調べる方法を話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学習問題>地いきに残る古い物には、どんな願いが込められ、どのように受け継がれてきたのでしょうか。</p> </div>
第2時から第7時	追究する	・大切な言葉の説明「文化財」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に古くから残る建物などの文化財を見学して調べる。 ・見学したことを歴史発見メモに記録する。 ・記録した歴史発見メモを基にして歴史発見カードにまとめる。(2時間)
		・大切な言葉の説明「祭り」「郷土芸能」「年中行事」	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から続く地域の年中行事をよく知る人に聞き取り調査をして調べる。 ・聞き取りしたことを歴史発見メモに記録する。 ・記録した写真や歴史発見メモを基にして歴史発見カードにまとめる。(2時間)
			<ul style="list-style-type: none"> ・歴史発見カードを基に個人で調査結果をまとめる。 ・個人でまとめたことをグループの中で紹介し合う。 ・紹介された文化財や祭り、年中行事に込められた昔の人の願いや守り、受け継ぐための努力を考える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県の概要「群馬県の文化財」 ・群馬県の取組「文化財保護に対する群馬県の取組」 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集「ぐんまくん」を活用し、群馬県の文化財の特色や保護するための課題を調べる。 ・文化財保護のために群馬県として進めている取組を調べる。 ・群馬県が文化財保護のための取組をしている理由を考える。
第8時から第10時	考える・まとめる		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに調べて分かったことや昔の人の願いを基にして、ふるさとれきしまップにまとめる。 ・まとめたふるさとれきしまップから、これから残していきたいことやみんなに伝えたいことを話し合う。
		・自分にできること「地域に残る文化を受け継ぐために人々がしていること」	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集「ぐんまくん」を活用し、地域に残る古い物を受け継ぎ守るために人々が行っている取組の良いところを見いだす。 ・実現するためにはどのような工夫をすればよいかグループで話し合い、地域に残る古い物を受け継ぐために自分にできることを考える。 ・地域に残る古い物を受け継ぐために自分にできることをグループで紹介しながら意見交換する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに調べたことを基に学習課題に対する答えやこの学習で学んだことを文章にまとめる。 ・学習課題に対する答えやこの学習で学んだことをグループで意見交換する。

<資料集「ぐんまくん」で提示する主な項目>

- 大切な言葉を説明している資料
- 群馬県の文化財の概要や文化財保護の課題の資料
- 文化財保護に対する群馬県の取組の資料
- 地域に残る文化を受け継ぐために人々が行っている取組の資料

6 展開

(1) 1時間目／10時間

① ねらい

地域に残る古い物や地域の人々が受け継いできた祭りや年中行事について調べたいことや調べる方法を考え、学習課題をつくることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 古くから残る建物や祭り、年中行事などの写真を見て、知っていることや疑問に思ったこと、自分が参加したことがある経験を発表する。	15	○見たり、参加したりした経験を基に自由に発表させる。
2 自分たちの住んでいる地域には、どんな古い物や昔から続いていることがあるのか話し合う。 ・古い建物がある。 ・昔から続いている祭りがある。 ・地域に伝わる行事がある。		○自分たちの住んでいる地域には、古くから伝わる文化財や祭り、年中行事が今も残っていることに気付かせる。
3 見つけた古い物の中からくわしく調べたいことを話し合う。 ・長く伝えられている物を調べたい。 ・人々の願いが込められている物を調べたい。	10	○グループごとに調べたいことを話し合わせる。
4 学習課題をつくり、調べる方法を話し合う。	17	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学習課題>地域に残る古い物には、どんな願いが込められ、どのように受け継がれてきたのでしょうか。</p> </div>		
<p>・古い建物を見学する。</p> <p>・祭りや年中行事をしている人やよく知っている人に話を聞く。</p>		○教科書の「調べること」「調べ方」「まとめ方」を参考にしながら、どのように調べるかを考えさせる。
5 学習課題の答えを予想する。 ・昔の村にたくさんの子どもが生まれ、もっと子どもが生まれてほしいと住む人々が願い、塔をつくった。 ・たくさんお米が取れたので来年も取れてほしいという昔の農家の人の願いが込められて、祭りをするようになった。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇興味・関心を持って、単元を貫く学習課題を設定している。（ノート）【関心・意欲・態度】</p> </div> <p>○これまでの学習や知識、経験を基に学習課題の答えを予想させる。</p> <p>○楽しくなるからという理由で祭りや年中行事をするのではなく、それぞれに込められた願いを予想させる。</p>
6 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に、地域に残る古い建物などを実際に見学することを伝える。

(2) 2・3時間目／10時間

① ねらい

地域に古くから残る建物などの文化財を見学し、その歴史を理解し、保存に取り組む人々の思いに気付くことができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
＜学習課題＞古くから残る建物などの文化財を見学し、どのように守られているか考えよう。		
・文化財の見学をしたり、詳しい人から話を聞いたりしながら考えよう。		
2 文化財の見学で何を見たり、聞いたりするかを確認しながら、歴史を発見するための見学・質問のポイントをつくる。	8	○学習課題の答えを探すために見学で何を見たり、聞いたりすればよいかを確認しながら、見学・質問のポイントをつくる。
3 古くから残る建物などの文化財を見学して調べ、見学したことを歴史発見メモに記録する。 ・建物の壁は木で作られていて、とても古い。 ・塔には屋根がついていて、絵が書かれている。 ・石に文字が書かれている。 ・約 400 年前に作られた。 ・お坊さんが住み、仏様を拝むために作られた。 ・先祖を供養するために作られた。 ・道の行き先を歩く人に知らせるために作られた。 ・古い建物だけどしっかり建っていて立派だ。 ・古い物なのに壊れていない。 ・作られてから約 600 年も経っているなんて驚いた。そんなに大切な物なのかな。 ・地域の人が掃除をしている。 ・近くに住んでいる人々が代々受け継いで守っている。 ・大切な文化財だから守ってきた。	57	○調べる文化財として校区内の「増信寺」「応永の塔」「一丁目道標」を取り上げ、見学する。 ○藤岡市職員や増信寺住職に解説員として、文化財の解説や児童の質問への回答をしてもらう。 ○文化財の外観や様子、特徴や秘密などが観察できるよう助言する。 ○見学・質問のポイントを用いて、「いつからあるか」「何に使われているか」「込められた願いは何か」「保存のためにどんな努力をしているか」など、学習課題の答えに結び付く質問ができるよう助言する。 ○調べているときは「見て分かったこと」「聞いて分かったこと」「大切にしたいこと」などを歴史発見メモに記録させる。
4 記録した歴史発見メモを基に歴史発見カードにまとめる。	20	○見学後は歴史発見カードに分かりやすく整理させる。 ◎記述が進まない児童には、歴史発見メモを基に文化財がどのように守られているかを書くよう助言する。 ◇古くから残る文化財の保存に取り組む人々の思いに気付き、歴史発見メモに書いている。(ワークシート)【知識・理解】
5 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に、昔から続く地域の祭りや年中行事をよく知る人に学校に来てもらい、聞き取り調査をすることを伝える。

(3) 4・5 時間目／10 時間

① ねらい

昔から続く地域の祭りや年中行事をよく知る人に聞き取り調査をし、その歴史を理解し、祭りや年中行事に込められた願いや受け継ぐ人々の思いに気付くことができる。

② 準備（教師）ワークシート

(児童) 教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	<div> <p><学習課題> 昔から続く祭りや年中行事をよく知る人の話を聞き、どのような願いが込められているか考えよう。</p> <p>・文化財を調べた時と同じやり方で考えよう。</p> </div>
2 祭りや年中行事をよく知る人の話の聞き取り調査で何を見たり、聞いたりするかを確認しながら、歴史を発見するための見学・質問のポイントをつくる。	8	○学習課題の答えを探すために見学で何を見たり、聞いたりすればよいかを確認しながら、見学・質問のポイントをつくる。
3 昔から続く祭りや年中行事をよく知る人の話を聞いて調べ、聞いたことを歴史発見メモに記録する。 ・御輿を担いで町を練り歩いている。 ・山車に乗り、太鼓を叩いたり、笛を吹いたりする。 ・藤岡の町内に住んでいる人が参加する。 ・たくさんの人が山車を引いている。 ・町内に住んでいる大人が、太鼓や笛の演奏を子どもに教えている。 ・藤岡祭りを大切に守り、藤岡の発展を願い、受け継いでいこうという気持ちがあるから長く続いている。 ・藤岡祭りがずっと続いてほしいからお囃子の保存会をつくった。 ・藤岡祭りを子どもにも受け継いでほしいと思っているから、子どもたちに太鼓や笛の演奏を教えている。 ・どんどやきは、小正月の1月15日に、正月飾りや書き初めを持ち寄って燃やす。残り火で焼いた団子を食べると、1年間健康でいられるという言い伝えがある。	57	○調べる祭りや年中行事として校区内で行われる「藤岡祭り」「どんどやき」を取り上げ、聞き取り調査をする。 ○藤岡祭りやどんどやきを運営する人や祭囃子保存会の人に解説員として来校してもらい、祭りや年中行事の解説や児童の質問への回答をしてもらう。 ○祭りや年中行事の様子、特徴や秘密などが観察できるよう助言する。 ○見学・質問のポイントを用いて、「いつから行われているか」「長く続くわけは何か」「込められた願いは何か」「受け継ぐための努力は何か」など、学習課題の答えに結び付く質問ができるよう助言する。 ○調べているときは「見てわかったこと」「聞いてわかったこと」「大切にしておもったことや人に伝えたいこと」などを歴史発見メモに記録させる。
4 記録した歴史発見メモを基に歴史発見カードにまとめる。	20	○聞き取り後は歴史発見カードに分かりやすく整理させる。 ◎記述が進まない児童には、祭りや年中行事に込められた願いについて歴史発見メモを基に書くよう助言する。 <div> <p>◇昔から続く祭りや年中行事に込められた願いやそれを受け継ぐ人々の思いに気づき、歴史発見メモに書いている。 (ワークシート)【知識・理解】</p> </div>
5 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に、見学や聞き取り調査で分かったことをグループで紹介し合う学習をすることを伝える。

(4) 6時間目／10時間

①ねらい

地域に残る文化財や祭り、年中行事に込められた人々の願いや保存のための人々の努力を考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

(児童)教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート、

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 前時までを振り返りながら本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<div> <学習課題>見学や聞き取り調査で分かったことをグループで紹介し、地域の文化財や祭り、年中行事にはどんな願いが込められているか、また、守り、受け継ぐためにどんな取組をしているか説明しよう。 </div>		
・見学や聞き取り調査で分かったことを基に説明しよう。		
2 歴史発見カードを基に調査結果をワークシートにまとめる。	15	○歴史発見カードを基に見学や聞き取り調査で調べた増信寺、応永の塔、一丁目道標、藤岡祭り、どんどこやきの特色や込められた願い、守るための人々の努力について表にまとめさせる。
3 個人でまとめたことをグループ内で説明しながら紹介する。 4 紹介したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。	12	○グループで紹介し合い、情報を共有させる。
5 地域の文化財や祭り、年中行事には、どんな願いが込められ、守り、受け継ぐためにどんな取組をしているか考え、ワークシートに書く。 ・文化財には、人々の暮らしをよくしたいという願いが込められている。 ・祭りには、お米がとれるようにという願いや町を発展させたいという願いが込められている。 ・年中行事には、人々が病気にならずに元気に暮らしたいという願いが込められている。 ・文化財や年中行事などを大切に思い、受け継いでいこうという気持ちを持ちながら守ってきた。 ・昔や今の人が助け合いながら守り、受け継いできた。	10	○地域に残る文化財は、よりよい生活をしたと願う先人の思いから作られたことを共感的に捉えさせる。 ○地域に続く祭りや年中行事は、先人が地域社会のために行った取組であることに気付かせる。 ○先人の様々な思いや願いが集まり、受け継ぐための工夫や努力によって、現在の自分たちの住んでいる地域が成り立っていることに気付かせる。
6 ワークシートに書いたことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。	3	○自分と友達の考えを比較させ、自分にはない考えに気付かせる。 <div> ◇地域の文化財や祭り、年中行事に込められた人々の願いや保存のための人々の努力を考え、ワークシートに書いている。(ワークシート)【思考・判断・表現】 </div>
7 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に、群馬県の文化財の特色や文化財を保護するために進めている取組について考える学習をすることを伝える。

(5) 7時間目／10時間

① ねらい

群馬県の文化財の特色や課題を調べ、群馬県が文化財の保護に取り組む理由を考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学習課題>群馬県の文化財を知り、文化財を保護するために進めている取組について考えよう。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・資料集を使って群馬県全体の文化財については、どうなっているか考えよう。 		
<p>2 資料集「ぐんまくん」を使いながら群馬県の文化財について分かったことや群馬県の文化財を守っていく上での課題を探し、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県には、国や県が保存することにした文化財が557件ある。 ・文化財の種類は、「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「記念物」がある。 ・旧富岡製糸場の世界遺産も文化財である。 ・群馬県の国登録文化財は、300棟あり、他の都道府県と比べて多い。 ・なぜ文化財が大切なのか地域に住む人に意外と知られていない。 ・文化財を身近に感じるができず自分たちの物という意識を持ちにくいことが課題である。 ・文化財を保存しようとする人の数が少なくなり、お年寄りを中心のところも多くなっている。 	12	○資料の読み取りから群馬県全体の文化財の特色や文化財を保護する上での課題をつかませる。
<p>3 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。</p> <p>4 意見交換したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。</p>	8	○新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。
<p>5 資料集「ぐんまくん」を使いながら文化財を保護するために群馬県が進めている取組を探し、分かったことや考えたことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県文化財保護条例を作って、文化財を守ろうとしている。決まりがあると、文化財を守れる。決まりがないと、植物を取ったり、地面を掘ったりして文化財が壊される。 ・文化財保護審議会で新しい文化財を決めると、保存される文化財が増え、壊される心配が減る。 ・群馬古墳総合調査をして古墳を調べると、自分たちが住む地域の歴史のよさが分かる。調査をしないで古墳について今調べないと、まだ見付かっていない古墳がそのままになり、いつか壊されてしまう。 ・伝統文化継承事業をすると、地域に残る古い物を知ることができる。継承事業をしないと、地域に伝わる文化や風習を知る人が少なくなり、なくなってしまう。 ・文化財を保護する取組をしなかったら、文化財がなくなってしまう。取組をすると文化財が残り、過去の生活における人々の願いを知ることができる。 	14	<p>○群馬県が文化財を保護する取組をしなかったら文化財はどうなるか考えることを通して、群馬県が文化財の保護に取り組んでいる理由に目を向けさせる。</p> <p>◎記述が進まない児童には、群馬県が文化財を保護する取組をすると、どんな良いことがあるか考えさせ、記述を促す。</p> <p>○自分たちの住んでいる地域の文化財について調べたことと群馬県の様子や取組を比較・関連付けながら考えるよう促す。</p>

6 ワークシートに書いたことを発表し、自分にな 考えを加筆・修正する。	6	○自分と友達の考えを比較させ、自分にな い考えに気付かせる。 ◇群馬県が文化財の保護に取り組む理 由を考え、ワークシートに書してい る。(ワークシート)【思考・判断・表 現】
7 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことを ノートに書くよう指示する。 ○次時に、これまでに調べて分かったこと や考えたことをふるさとれきしマップ にまとめる学習をすることを伝える。

(6) 8時間目／10時間

① ねらい

これまでに調べて分かったことや昔の人の思いや願いをふるさとれきしマップにまとめ、地域の人々が受け継いできた文化財や祭り、年中行事には、地域の発展やまとまりなどへの人々の思いや願いが込められていることを理解することができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	時 間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<p><学習課題>地いきに残る古い物について、ふるさとれきしマップにまとめ、いつまでも地域に残していきたいこと（物）を考えよう。</p>		
・これまで調べてきたことを基にふるさとれきしマップを作り、その中から残したいこと（物）を考えよう。		
2 ふるさとれきしマップの作り方を確認する。	22	○教科書のまなび方コーナーを参考にしながら、ふるさとれきしマップの作り方をつかませる。
3 グループでふるさとれきしマップを作る。		○これまでの学習で作成した物（歴史発見メモ、歴史発見カード、ワークシート）を活用しながらグループごとに効率よく白地図にまとめるよう助言する。
4 ふるさとれきしマップを作って、地域に残る古い物について分かったことや考えたことをワークシートに書く。 ・自分たちの住んでいる地域には、文化財や祭り、年中行事があり、長く残ったり、続いたりしている。 ・文化財や祭り、年中行事には、昔の人々の願いが込められている。 ・文化財や祭り、年中行事を守ってきた人がいるから今も残っている。 ・今回調べた他にも文化財や祭り、年中行事が自分たちの住んでいる地域にあるか調べたい。 ・文化財や祭り、年中行事を自分も守っていきたい。 ・なくなった文化財や祭り、年中行事は多いのかな。	6	○分かったことや考えたことの他に疑問なども書くよう促す。 ○ふるさとれきしマップの作成を通して考えたことをワークシートに記述させ、自分の考えを広げさせる。

5 まとめたふるさとれきしまップからいつまでも地域に残していきたいこと（物）と理由を考え、ワークシートに書く。 ・地域に残る古い建物はみんな残したい。壊れると二度と見ることができないから。 ・祭りを残したい。自分もずっと続いてきた祭りを受け継ぎたいから。 ・どんどやきを残したい。病気などにかからず 1 年間元気に過ごせることを願う行事はこれからも地域には大切だから。	5	◎残していきたい理由の記述が進まない児童には、文化財や祭り、年中行事に込められた願いや守るために人々がしてきた努力に目を向けさせ、大切さを感じさせながら記述を促す。
6 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。 7 意見交換したことを発表し、自分にない考えを加筆・修正する。	7	○新たな発見や感想をグループで紹介し合い、友達の考えに触れさせる。 ◇地域の文化財や祭り、年中行事には、地域の発展やまとりなどへの人々の思いや願いが込められていることに気づき、ワークシートに書いている。（ワークシート）【知識・理解】
8 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に地域の文化を受け継ぐために自分にできることを考える学習をすることを伝える。

(7) 9 時間目 / 10 時間

① ねらい

根拠を明らかにしながら地域の文化を受け継ぐために自分にできることを考えることができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
<学習課題>地域に残る文化を受け継ぐために、自分にできることを考えよう。		
・資料集を使ってどんなことが自分にできるか考えよう。		
2 なぜ地域に残る文化を受け継ぎ、守っていくべきなのか理由を考え、ワークシートに書く。 ・古い物は一度なくしてしまうと二度と見ることができなくなってしまうから。 ・古い物には昔の人の願いや思いが込められているから。 ・昔の人の努力があったからこそ今も残っているから。	7	○これまでに学習してきたことを基に具体的に記述するよう助言する。 ◎記述が進まない児童には、なぜ古い物は今でも地域に残っているのか理由を考えるよう促し、それを基に書くよう助言する。 ○自分と友達の考えを比較させ、自分にない考えに気付かせる。
3 ワークシートに書いたことを発表し、自分にない考えを加筆・修正する。		
4 資料集「ぐんまくん」を使いながら地域の文化を受け継ぐために人々が行っている取組の良いところや大変なところを考え、ワークシートに書く。	16	

5 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。	10	○新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。
6 意見交換したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。		
7 地域に残る文化を受け継ぐために自分にできることを考え、ワークシートに書く。	7	○地域の文化を受け継いでいくための方策について実現するための工夫も書かせ、自分なりのプランを考えさせる。 ○地域の文化を未来に向けて今後に残していくために自分にできることを考える活動を通して、自分自身もその継承者である意識を持たせる。
8 ワークシートに書いたことを発表する。		◇明確な根拠（実現可能性）を示しながら地域の文化を受け継ぐために自分にできることを考え、ワークシートに書いている。（ワークシート）【思考・判断・表現】
9 学習のまとめをし、次時の学習を知る。	3	○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。 ○次時に、単元を貫く学習問題の答えを導き出す学習をすることを伝える。

(8) 10 時間目／10 時間

① ねらい

地域には、人々の思いや願いが込められた文化財や祭り、年中行事があり、昔も今も人々によって大切に受け継がれていることを考えることができる。

地域に残る文化財や祭り、年中行事に関心を持ち、自分たちも地域の発展を願い、文化財や祭り、年中行事を保存・継承していこうとする意欲を持つことができる。

② 準備（教師）ワークシート

（児童）教科書、副読本、資料集「ぐんまくん」、ノート

③ 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	2	
＜学習課題＞「ふるさとれきしまップ」の学習の学習課題の答えをまとめ、友だちに説明しよう。		
・これまで学習してきたことを基に答えをまとめ、説明しよう。		○単元を貫く学習課題の内容を確認し、どのように追究すればよいのかの見通しを具体的に持たせる。
2 自分たちの住んでいる地域には、どんな文化財や祭り、年中行事が残るのか振り返る。 ・増信寺 ・応永の塔 ・一丁目道標 ・藤岡祭り ・どんどこやき	3	○実際に調べてきた文化財や祭り、年中行事を振り返らせる。
3 学習課題の答えや学習をして学んだことをワークシートに書く。	25	○これまでに調べ記入してきたワークシートを基に学習課題の答えを導き出し、ワークシートにまとめるよう指示する。 ◎記述が進まない児童には、実際に調べた文化財や祭り、年中行事には、人々のどんな願いが込められているかをワークシートから探し、書くよう促す。

<p>4 ワークシートに書いたことをグループ内で説明しながら意見交換する。</p> <p>5 意見交換したことを発表し、自分にはない考えを加筆・修正する。</p> <p>・ふるさとれきしマップの学習をして、自分たちの住んでいる地域には、古くから残る文化財や受け継がれている祭りや年中行事があることが分かった。それらには、「地域が発展してほしい」「人々が豊かになるように」という願いが込められている。また、地域の人々がこれらを残そうと努力してきたから古い物が今でも残っている。自分たちも文化財や祭り、年中行事を守り、受け継いでいきたい。</p>	15	<p>○新しく気付いた考えを書き加えるよう指示する。</p> <div> <p>◇地域には、人々の思いや願いが込められた文化財や祭り、年中行事があり、大切に受け継がれていることを考え、ワークシートに書いている。(ワークシート)【思考・判断・表現】</p> </div>
<p>6 学習のまとめをする。</p>	3	<p>○本時の学習を振り返り、分かったことをノートに書くよう指示する。</p>

ぐんまくんワークシート



(写真は、藤岡市の道祖神)

資料集「ぐんまくん」を活用して、「群馬県全体のようにはどうなっているのか」と考えたことをワークシートに書きましょう。そして、自分たちの住んでいる地いきについて、もっと広い視野で考えてみましょう。



群馬県の水や川について分かったことや安全な水に対する群馬県の取り組みを考えよう

() 組 名前 ()

☆群馬県の水や川について分かったことを書きましょう。

＜群馬県の水や川＞



群馬県の人たちが使う水の量は、どうなっているかな？また、群馬県の川には、どんな問題があるのか考えましょう。

☆群馬県が安全な水のためにしている取り組みをさがし、分かったことや考えたことを書きましょう。



県や市町村が安全な水をかくほすための取り組みをしなかったら、わたしたちのくらしはどうなってしまうのかな？なぜ、さまざまな取り組みをしているのか理由を考えましょう。

水を大切にするために、自分にできることを考えよう

() 組 名前 ()

☆これまでに学習してきたことをふりかえりながら、なぜ、わたしたちは水を大切にすべきなのか考え、書きましょう。

--

☆水を大切にするための取り組みのよいところや大変なところを考え、書きましょう。

	節水をしたり、水の再利用をしたりする	川のかんきょう調査にさんかする	標語やしょうかいカードをつくって、みんなにつたえる
よいところ			
大変なところ			

☆水を大切にするために、自分にもできそうなことを考え、書きましょう。

自分にもできそうなことはどんなことですか？また、それには、どんなよいところがありますか？
それを実現するためにはどのようにくふうをすればみんなも協力してくれるでしょうか？



これからも かぎりある水を使い続けるために、自分にもできそうなことを考え、書きましょう。

「くらしをささえる水」の学習のまとめをしよう

() 組 名前 ()

＜学習課題＞ わたしたちの生活に欠かせない水は、どこでどのようにしてつくられ、送られてくるのでしょうか。

☆「くらしをささえる水」の学習をふりかえりながら、学習課題の答えを文しょうで書きましょう。また、この学習をして学んだこと（自分が考えたこと）を文しょうで書きましょう。

＜学習課題の答え＞

＜学習をして学んだこと（自分が考えたこと）＞



学習課題の答えは、「くらしをささえる水」の学習で記入したプリントを見ながら書きましょう。学習をして学んだことは、安全な水をつくるために行っているさまざまな取り組みについて考えたことやこれから自分はどのようなことをしようと思ったかについて書きましょう。

群馬県のごみしよりについて分かったことやごみしよりに対する群馬県の取り組みを考えよう
() 組 名前 ()

☆群馬県のごみやごみしよりについて分かったことを書きましょう。

＜群馬県のごみやごみしよりについて分かったことを書きましょう＞



群馬県のごみの量やリサイクル率は、他の都道府県と比べてどうなっているかな？また、群馬県のごみやごみしよりに、どんな問題があるのか考えましょう。

☆群馬県がごみしよりの問題を解決するためにしている取り組みをさがし、分かったことや考えたことを書きましょう。



県や市町村がごみしよりの問題を解決するための取り組みをしなかったら、わたしたちのくらしはどうなってしまうのかな？なぜ、さまざまな取り組みをしているのか理由を考えましょう。

ごみをへらしたり、資源として生かしたりするために、自分にできることを考えよう

() 組 名前 ()

☆これまでに学習してきたことをふりかえりながら、なぜ、わたしたちはごみをへらすとよいのか考え、書きましょう。

--

☆ごみをへらしたり、資源として生かしたりするための取り組みのよいところや大変なところを考え、書きましょう。

	家庭での取り組み	学校での取り組み	お店での取り組み	地いきでの取り組み
よいところ				
大変なところ				

☆ごみをへらしたり、資源として生かしたりするために自分にもできそうなことを考え、書きましょう。

自分にもできそうなことはどんなことですか？また、それにはどんなよいところがありますか？

--

それを実現するためには、どのようにふうをすればみんなも協力してくれるでしょうか？

--



これからもくらしやすい社会を続けるために、自分にもできそうなことを考え、書きましょう。

「住みよいくらしとごみ」の学習のまとめをしよう

() 組 名前 ()

＜学習課題＞ 分けて集められたごみやしげんは、どのようにしてしゅりされたり、再利用されたりするのでしょうか。

☆「住みよいくらしとごみ」の学習をふりかえりながら、学習課題の答えを文しょうで書きましょう。
また、この学習をして学んだこと（自分が考えたこと）を文しょうで書きましょう。

＜学習課題の答え＞

＜学習をして学んだこと（自分が考えたこと）＞



学習課題の答えは、「住みよいくらしとごみ」の学習で記入したプリントを見ながら書きましょう。学習をして学んだことは、ごみをしゅりするために行っているさまざまな取り組みについて考えたことやこれから自分はどのように思ったかについて書きましょう。

群馬県の文化ざいについて分かったことや文化ざいほごに対する群馬県の取り組みを考えよう

() 組 名前 ()

☆群馬県の文化ざいについて分かったことを書きましょう。

＜群馬県の文化ざい＞

＜群馬県の文化ざいを守っていく上でのかだい＞



群馬県にはどんな文化ざいがあり、文化ざいの数は他の都道府県と比べてどうなっているかな？また、群馬県の文化ざいを守っていくには、どんな問題があるのか考えましょう。

☆群馬県が文化ざいをほごするためにしている取り組みをさがし、分かったことや考えたことを書きましょう。



国や県、市町村がほごする取り組みをしなかったら文化ざいはどうなってしまうのかな？なぜ、文化ざいをほごするための取り組みをしているのか理由を考えましょう。

地いきにのこる文化を受けつぐために、自分にできることを考えよう

() 組 名前 ()

☆これまでに学習してきたことをふりかえりながら、なぜ、わたしたちは地いきにのこる文化を受けつぎ、守っていくべきなのか考え、書きましょう。

--

☆地いきにのこる文化を受けつぐための取り組みのよいところや大変なところを考え、書きましょう。

	地いきの祭りや年中行事にさんかする	古くからのこされているものを大切にする	きょう土カルタやしょうかいカードをつくって、みんなにつたえる
よいところ			
大変なところ			

☆地いきにのこる文化を受けつぐために、自分にもできそうなことを考え、書きましょう。

自分にもできそうなことはどんなことですか？また、それには、どんなよいところがありますか？
それを実現するためにはどのようにくふうをすればみんなも協力してくれるでしょうか？



地いきにのこる文化には、だれの、どんなねがこめられ、どのように受けつがれてきたのか考えながら、自分にもできそうなことを考え、書きましょう。

「ふるさとれきしマップ」の学習のまとめをしよう

() 組 名前 ()

＜学習課題＞ 地いきにのこる古いものには、だれの、どんなねがいがこめられ、どのように受けつがれてきたのでしょうか。

☆「ふるさとれきしマップ」の学習をふりかえりながら、学習課題の答えを文しょうで書きましょう。
また、この学習をして学んだこと（自分が考えたこと）を文しょうで書きましょう。

＜学習課題の答え＞

＜学習をして学んだこと（自分が考えたこと）＞



学習課題の答えは、「ふるさとれきしマップ」の学習で記入したプリントを見ながら書きましょう。学習をして学んだことは、地いきにのこる文化を受けついできた人々について考えたことやこれから自分はどのように考えたかについて書きましょう。